

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 平川 和	

講義のねらい

各レッスンでは初中級レベルの英語で書かれた様々なテーマのエッセイを読み、その内容理解度をチェックする問題を解く。また、レッスンごとに設定された文法事項を理解し、それに沿った練習問題も解く。リーディングとリスニングを中心に基礎的な英語力の定着を目指す。より大きな目標としては、単に英語力を向上させるだけでなく、英語学習を通じて教養を身につけ、世界に対する自分の視野を広げることを期待する。

授業計画

第1回	イントロダクション, Unit1	第16回	Unit8: Global Issues
2回	Unit1: Cross-Cultural	17回	Unit8: Global Issues
3回	Unit2: Foods	18回	Unit9: Japanese Culture
4回	Unit2: Foods	19回	Unit9: Japanese Culture
5回	Unit3: Foreign Language	20回	Unit10: Human Rights
6回	Unit3: Foreign Language	21回	Unit10: Human Rights
7回	Unit4: Sports	22回	Unit11: Health
8回	Unit4: Sports	23回	Unit11: Health
9回	Unit5: Fashion	24回	Unit12: Environment
10回	Unit5: Fashion	25回	Unit12: Environment
11回	Unit6: Living Things	26回	Unit13: Economy
12回	Unit6: Living Things	27回	Unit13: Economy
13回	Unit7: Art	28回	Unit14: Legal Issues
14回	Unit7: Art	29回	Unit15: Technology
15回	前期のまとめ (筆記試験)	30回	後期のまとめ (筆記試験)

教材・テキスト・参考文献等

- ・ Ambitions: Pre-intermediate (静哲人他編著、金星堂)

成績評価方法

- ・ 「出席」「授業中に実施する小テスト」「授業中に実施するグループワーク」(合わせて50%)、まとめの筆記試験(50%)を基準に評価する。
- ・ 提出物や小テスト、まとめの試験の形式についてはその都度説明するが、いずれもテキストの内容とレベルに基づいたものである。
- ・ 授業に取り組む姿勢も成績評価に含む。
- ・ 欠席が5回を越えた場合は評価の対象外とする。

その他

- ・ 辞書は各自持参すること。授業中の携帯電話その他通信機器の使用は禁じる。
- ・ 受講生の理解度によっては上記授業計画の一部を変更することもある。

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 村井 美代子	

講義のねらい

- ・国内外の英字新聞やインターネットに掲載された様々なニュース15項目を選びまとめたテキストを読む。各章300語程度の読み切り形式で、メディアで使われている英語に慣れ、情報の要点を即座に把握できる読解力・速読力を養っていく。
- ・各章にはリーディング課題だけでなく、写真を描写する英文の選択、要約文の穴埋め、短い英文内容の理解を問うリスニング問題も用意されている。これまでの英語学習の基礎の上に、実践的な読み取り、聞き取りの力を身につけてほしい。

授業計画

- ・1つの章を2回の授業で読了する予定。ただし、受講生の学習の進捗度などによって、授業進行の速度は随時調整する。

第1回	オリエンテーション	第16回	第7章 (健康と生産性)
2回	第1章 社会・観光	17回	第8章 社会
3回	第1章 (手ぶら観光)	18回	第8章 (第二の人生)
4回	第2章 健康	19回	第9章 健康
5回	第2章 (果物アレルギー)	20回	第9章 (デジタルと健康)
6回	第3章 社会	21回	第10章 情報・技術
7回	第3章 (食品ロス)	22回	第10章 (サイバー攻撃)
8回	第4章 芸術・技術	23回	第11章 国際・政治
9回	第4章 (アニメ)	24回	第11章 (報道写真)
10回	第5章 科学技術	25回	第12章 労働
11回	第5章 (ロボコン)	26回	第12章 (ガラスの天井)
12回	第6章 科学技術	27回	第13章 医療
13回	第6章 (デジタル技術)	28回	第13章 (東西医学)
14回	第7章 経済	29回	第14章 社会・経済
15回	前期学習内容のまとめ	30回	後期学習内容のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

『ソーシャル・キーワード—メディア英語で社会を読み解く』 (三修社)

成績評価方法

- ・毎回出席をとる。
- ・前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・成績は前後期試験を中心にして、出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点 = 7 : 3

講義科目 : 独語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [独語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 今本 幸平	

講義のねらい

初歩的なドイツ語文法を勉強します。文法の知識だけでなく、ドイツ語の読み方を身につけるため、音読の練習も重視します。

授業計画

第1回	授業ガイダンス、アルファベット	第16回	前期の復習
2回	第1課 ドイツ語のつづりと発音	17回	第7課 前置詞
3回	第2課 文の作り方(動詞の形)	18回	第7課 練習問題
4回	第2課 重要な動詞、語順の原則	19回	第8課 分離動詞、文のつなぎ方
5回	第2課 練習問題	20回	第8課 練習問題
6回	第3課 文の作り方(名詞と冠詞)	21回	第9課 助動詞を使った文
7回	第3課 練習問題	22回	第9課 練習問題
8回	第4課 冠詞の仲間	23回	第10課 動詞の過去形と過去分詞
9回	第4課 練習問題	24回	第10課 練習問題
10回	第5課 人称代名詞、目的語の語順	25回	第11課 現在完了形、受動態
11回	第5課 練習問題	26回	第11課 練習問題
12回	第6課 不規則動詞	27回	第12課 形容詞、比較表現
13回	第6課 練習問題	28回	第12課 練習問題
14回	復習	29回	復習
15回	「前期まとめ」と確認テスト	30回	「後期まとめ」と確認テスト

* 上記は予定です。実際の進み具合は受講生の理解度に応じて調整します。

* 学期末の確認テスト(各学期の内容をすべて含むテスト)の他、授業中に10～15分程度の小テストを行う場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

・教科書: 「プロムナード やさしいドイツ語文法 (PROMENADE Deutsch)」
(白水社)

・独和辞典

教科書と辞書は、両方とも必ず毎回持参してください。

辞書は初回の授業でいくつか紹介するので、その後で購入して下さい。

成績評価方法

- ・前期、後期とも、全15回の授業のうち10回以上の出席と、学期末の確認テストで60点以上取ることが単位取得の条件です。
- ・原則として前期・後期の確認テストの平均点に基づいて成績を出します。出席状況は上記範囲内であれば成績にプラスにもマイナスにも影響しません。
- ・各学期で欠席が5回を超えると、成績評価の対象外となります。(遅刻、早退は0.5回分とします。例えば欠席4回、遅刻3回は、5.5回欠席で不可です)

その他

- ・週一度の授業だけでは記憶が定着しにくいので、予習、復習をしましょう。
- ・知らない単語が出てきたら、自主的に辞書で調べる習慣をつけましょう。

講義科目 : 仏語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [仏語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 井出 勉	

講義のねらい

- ・フランス語の綴り字と発音の関係を学び、きちんと発音できるようになることを目指します。
- ・フランス語の基本的な文法と簡単な日常会話を覚える。
- ・実用フランス語技能検定試験（仏検）5級を習得できるレベルまでの到達も目指します。

授業計画

第1回	フランス紹介・発音	第16回	所有形容詞、疑問形容詞
第2回	綴り字の読み方・挨拶	第17回	人称代名詞の強勢形、指示形容詞
第3回	発音練習・挨拶	第18回	～がある、～がしたいのですが
第4回	挨拶・自己紹介の仕方	第19回	定冠詞の縮約、国名
第5回	名詞の性と数・不定冠詞	第20回	補語人称代名詞（直目・間目）
第6回	形容詞①	第21回	代名動詞
第7回	形容詞②・指示代名詞	第22回	中性代名詞
第8回	動詞の活用・定冠詞	第23回	天気の尋ね方と答え方
第9回	疑問文の作り方	第24回	時刻の尋ね方と答え方、命令形
第10回	動詞持っ	第25回	部分冠詞①
第11回	否定文	第26回	部分冠詞②、カフェでの注文
第12回	数字・年齢	第27回	比較級
第13回	動詞行く・近接未来	第28回	複合過去①：過去分詞の作り方
第14回	疑問代名詞・動詞する	第29回	複合過去②
第15回	まとめと確認：試験	第30回	まとめと確認：試験

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田裕二『パリ-ボルドー』朝日出版社

辞書：講義冒頭で紹介

参考文献については講義中に紹介

成績評価方法

平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、期末試験70%
年間10回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

その他

講義科目 : 中国語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [中国語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 花尻 奈緒子	

講義のねらい

正しい中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語を学び、簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになる。また、単純な文を聞いて意味を理解できるようになる。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	第九課 モノを数える単位
2回	第一課 基礎発音1	17回	第九課 「～は…にある」
3回	第一課 基礎発音2	18回	第十課 前置詞
4回	第二課 基礎発音3	19回	第十課 経験を表す文
5回	第二課 基礎発音4	20回	第十一課 助動詞・仮定文
6回	第三課 「～は…です」	21回	第十二課 持続を表す文
7回	第四課 形容詞の文	22回	第十二課 進行を表す文
8回	第五課 動詞の文	23回	第十三課 「～より…だ」
9回	第五課 数の数え方	24回	第十三課 程度を表す補語
10回	第六課 「～それとも…？」	25回	第十四課 動作量を表す補語
11回	第六課 完了形	26回	第十四課 離合動詞
12回	第七課 金額の言い方	27回	第十五課 結果を表す補語
13回	第七課 二重目的語の動詞	28回	第十五課 可能を表す補語1
14回	第八課 年月日・時刻	29回	第十六課 方向を表す補語
15回	第八課 名詞述語文	30回	第十六課 可能を表す補語2

教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキストー中国語 I 基礎ー」

成績評価方法

出席および前・後期の期末試験

その他

予習復習を欠かさずに行うこと。

講義科目	: 体育講義	単位数	: 2
マークシート略	: [体育講義]	学習形態	: 選択科目
担当	: 宝来 毅		

講義のねらい

- ・健康と生活習慣の関係について理解する。
- ・トレーニングに関する知識を理解する。
- ・自分の体力を把握する

授業計画

第1回	ガイダンス
2回	現代社会における健康について
3回	健康と生活習慣①（喫煙・飲酒）
4回	健康と生活習慣②（運動）
5回	健康と生活習慣③（『笑い』に秘めた力）
6回	トレーニングの理論①
7回	トレーニングの理論②
8回	身体の仕組み
9回	トレーニングに必要な筋肉（理論）
10回	トレーニングに必要な筋肉（演習）
11回	コンディショニングの仕組み
12回	栄養と食事
13回	運動場面におけるメンタル
14回	体力測定（演習）
15回	テスト

教材・テキスト・参考文献等

必要な資料は授業で適宜配布します。

参考文献 伊藤マモル（2017） スポーツトレーニング理論 日本文芸社

成績評価方法

- ・出席45点，試験55点 合計100点で評価します。
- ・出席状況は重視します。欠席1回につき3点減点します。
- ・欠席4回で単位不可とします（忌引等やむ負えない事情がある場合はこの限りではありません）。

その他

- ・能動的に受講することが求められる授業です。積極性を欠いた態度の場合は減点あるいは不可となります。
- ・講義内容を体得するために簡単な実技も行う予定です。運動できる格好で受講してください。

講義科目	: 体育実技	単位数	: 1
マークシート略	: [体育実技]	学習形態	: 選択科目
担当	: 宝来 毅		

講義のねらい

- ・生涯にわたって運動・スポーツを实践できる知識と技能を体得する。

授業計画

第1回	ガイダンス 体力測定
2回	バスケットボール (1) 基本動作 (パス, ドリブル, シュート)
3回	バスケットボール (2) 総当たり戦1
4回	バスケットボール (3) 総当たり戦2
5回	バスケットボール (4) 総当たり戦3
6回	バレーボール (1) 基本動作 (アンダー・オーバーハンド)
7回	バレーボール (2) 総当たり戦1
8回	バレーボール (3) 総当たり戦2
9回	バレーボール (4) 総当たり戦3
10回	卓球 (1) 基本的なストローク
11回	卓球 (2) 総当たり戦1
12回	卓球 (3) 総当たり戦2
13回	バドミントン (1) 基本的なストローク
14回	バドミントン (2) 総当たり戦1
15回	バドミントン (3) 総当たり戦2

教材・テキスト・参考文献等

テキストの使用予定はありません。各自、上記種目の試合の進行方法やルールなどは調べて把握しておきましょう。

成績評価方法

- ・出席点 (75点) 課題レポート点 (25点) の合計100点で評価します。
- ・出席状況を最も重要視します。欠席1回につき5点減点します。
- ・欠席4回で単位不可とします (忌引等やむ負えない事情がある場合はこの限りではありません)。

その他

- ・能動的に受講することが求められる授業です。積極性を欠いた態度の場合は減点あるいは不可となります。
- ・実技にふさわしい服装 (髪、爪などを含む) とシューズを着用すること。
- ・アクセサリ類はけが防止の観点から必ず外して受講して下さい。
- ・授業計画に挙げた運動種目は受講者の人数や体力レベルに応じて適宜変更します。

講義科目 : 情報と科学	単位数 : 2
マークシート略 : [情報科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	教職選択科目(65期)

講義のねらい

情報科学から生み出された技術により、人間の生活は大きく変化している。特に、コンピュータの出現は、人間の暮らしを劇変させた。コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報技術の中身を理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるよう指導する。

ITパスポート試験、及び、基本情報技術者試験対策となるように配慮する。

授業計画

第1回	コンピュータの歴史
2回	コンピュータの構成
3回	情報の表現1 (2進数)
4回	情報の表現2 (16進数、文字コード)
5回	論理回路
6回	ネットワーク1 (LANとWAN、無線LAN)
7回	ネットワーク2 (ネットワーク機器、TCP/IP)
8回	ネットワーク3 (WWW、電子メール)
9回	データベース
10回	アルゴリズムとデータ構造1
11回	アルゴリズムとデータ構造2
12回	プログラミング演習1 (変数、データ型)
13回	プログラミング演習2 (if文、for文、while文)
14回	プログラミング演習3 (応用)
15回	期末試験、まとめ

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書は使用しない予定
- ・適宜プリント等を配布

成績評価方法

- ・期末試験を実施する。50%程度成績に反映させる。
- ・小テストを毎回実施する。40%程度成績に反映させる。
- ・出席を取り、10%程度成績に反映させる。
- ・5回以上欠席した場合は、単位認定しない。

その他

小テストを毎回実施するので、小テストを通して講義時間外でも復習するように。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	教職選択科目(65期)

講義のねらい

現在、あらゆる場面でコンピュータの利用が欠かせなくなっている。そのコンピュータについての基礎知識を習得できるよう指導する。

特に、実際のアプリケーションソフト（Word, Excel, PowerPoint）を利用した課題に取り組むことで、パソコンの使用方法の基礎を習得できるよう指導する。

授業計画

- 第1回 実習室の利用方法とコンピュータの基本操作
- 第2回 Word の基礎 1（各部の名称）とタイピング練習
- 第3回 Word の基礎 2（ページ設定、文書入力、スタイル、脚注）
- 第4回 Word の基礎 3（表の作成、SmartArtグラフィック）
- 第5回 Word の基礎 4（図の作成、ヘッダーとフッター）
- 第6回 Word の基礎 5（段組み、数式）
- 第7回 Excel の基礎 1（入力方法、オートフィル、書式設定）
- 第8回 Excel の基礎 2（絶対参照、関数、グラフ）
- 第9回 Excel の基礎 3（表計算の応用）
- 第10回 PowerPointの基礎
- 第11回 最終課題作成 1
- 第12回 最終課題作成 2
- 第13回 最終課題作成 3
- 第14回 最終課題発表
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

『MS OFFICE 2013を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社、切田節子、三浦信宏、小林としえ、乙名健 共著、2014

成績評価方法

出席を毎回取り、成績評価に加味する。各課題の配点と出席点は下記のとおりである。

- Word課題：15点程度
- Excel課題：20点程度
- PowerPoint課題：10点程度
- 最終課題：40点程度
- 出席：15点程度

その他

- ・実習の講義は欠席するとついていけなくなります。欠席しないように。
- ・パソコンに不慣れな人は、講義の予習と復習を積極的にするように。
- ・パソコンに習熟した人は、追加の課題に取り組んだり、周りの人に教えたりすることで、さらに理解を深めるように。

講義科目 : 情報処理実習Ⅱ	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田中 通	

講義のねらい

- ITが社会基盤のインフラとして定着し、現在ではその上でのスキルだけでなく、コミュニケーションがより重視されてきている。そのような社会環境の中で、その双方の理解の助けとなる講義を目指す。
- コミュニケーションツールとして**blog**を用い、自らの行動によって変化する状況を、様々な角度から分析する。

授業計画

- 第1回 ガイダンス, **blog**作成
- 第2回 **blog**のカスタマイズ, 画像入り記事の投稿, 授業用記事へトラックバック送信, **Evernote**を用いたリポートの共有
- 第3回 **Excel**へのアクセスデータ入力, **CMS**とは
- 第4回 **blog**を通じた相互交流
- 第5回 **HTML** (1)
- 第6回 **HTML** (2): コンピュータで扱う色について, ショートカット演習
- 第7回 **HTML** (3): 文字装飾, 画像表現, ハイパーテキスト
- 第8回 **HTML** (4): 内部リンク, 外部リンク
- 第9回 **HTML** (5): 相互リンク
- 第10回 **Excel** (1): 基礎, 連続データ入力, 計算, グラフ作成
- 第11回 **Excel** (2): 中級, 並び替え, フィルタ
- 第12回 **Excel** (3): データ合成, クロス集計
- 第13回 最終課題作成作業 (1): 各自でデータ解析
- 第14回 最終課題作成作業 (2)
Word: **Excel**との連携, 箇条書き, 表紙, 段組み等
- 第15回 最終課題作成作業 (3): 仕上げ作業, 査読

教材・テキスト・参考文献等

- 講義出席者に限りプリントを配布
- スクリーン出力

成績評価方法

- 出席状況と課題提出状況・内容から総合的に評価する。
- 最終課題は論文形式文書作成。E-Mailで提出。

その他

- 出欠確認と同時に状況報告の機会があるので、極力欠席しないこと。
- この授業は連続性のある実習です。欠席した場合は次回の実習までに欠席した実習の内容を自分で進めておいてください。能力が追い付いていなければ報告書もE-Mailで前日までに送っておくこと。

講義科目 : 環境論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有哲	

講義のねらい

環境問題は今日、人類が直面する最重要課題のひとつであるとみなされるに至っている。本講義の目的は、生物多様性、地球温暖化、核エネルギーという3つの大きなテーマについて概観することである。

授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 地球温暖化のメカニズム
- 第3回 地球温暖化がもたらすもの
- 第4回 懐疑論について
- 第5回 地球温暖化にどう対応すべきなのか
- 第6回 核分裂と核融合
- 第7回 核分裂発電の仕組み
- 第8回 核エネルギー生産の利点と難点①
- 第9回 核エネルギー生産の利点と難点②
- 第10回 日本はなぜ「原発列島」と化したのか
- 第11回 生物多様性とは何か
- 第12回 生物多様性はなぜ大事なのか
- 第13回 生物多様性破壊の現状と背景①
- 第14回 生物多様性破壊の現状と背景②
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

講義中に適宜指示する。

成績評価方法

毎回小レポートを課し、それをもとに評価を行う。

その他

講義科目	:教育の基礎理論	単位数	:2
マークシート略	:[教育基礎]	学習形態	:選択科目
担当	:山田 全紀・藤枝 律子		

講義のねらい

教育の基礎理論は、教育が成り立つための土台、すなわち教育の本質（何か？）と根拠（何故か？）について広く学び、現代教育を支えている理論を検証することをねらいとする。言い換えれば、現在行われている教育に対して、例えば、学校や教師について、「何故学校へ行くのか？」「教師とは何か？」というような最も基礎的な問いを立てることが肝要であり、これはわれわれの常識を問い直すことでもある。

授業計画

第1回	シラバス概観
2回	学校とは何か？教師とは何か？という基礎的な問い
3回	ギリシア哲学の学校とキリスト教の学校
4回	ソクラテ斯的教師とスコラの教師
5回	近代教育から現代教育への展開
6回	J. J. ルソーの教育観－消極教育と積極教育－
7回	I. カントの人間学と教育観
8回	近代教育批判と現代的人間観
9回	西洋と東洋の人間観・世界観－宗教と教育の関係－
10回	現代教育における個人の問題
11回	実存思想とO. F. ボルノーの教育観
12回	人間教育と日本人教育の間
13回	教育基本法改正と新しい学習指導要領
14回	現代日本の教育改革と求められる日本国民像
15回	まとめ－自己への問い－

教材・テキスト・参考文献等

講義中に資料を配布する。

成績評価方法

レポートおよび平常点による

その他

講義科目 :生涯学習論	単位数 :2
マークシート略 :[生涯学習]	学習形態 :選択科目
担当 :長島 洋(りょうがん)	教職選択科目

講義のねらい

生涯学習は、生まれたときから死ぬときまでのながいスパンのなかで、学びを通して人と人がつながり、その学んだ成果を地域に活かしあい、それを評価しあう、そんな社会の実現に向けて取り組むものです。学んだ成果をどうやって社会に還元していくか それをテーマに講義を進めます。

だれもが、いつでも、生涯をとおして学ぶことにより、自分の生活や人生感が豊かになり、その学んだ力、成果を地域や学校、職場でどのように活かしていくかを学習します。特に、三重県を中心に自分のふるさとの課題解決にむけた生涯学習のあり方を、学びあい、実際の活動へとつながるよう学習します。

具体的には、生涯学習概論をはじめに学び、後半には、三重県内等のふるさとを見つめ直し、課題を考え、その課題解決にむけた生涯学習プログラムを立案、発表してもらいます。ふるさとや三重が輝けることを願って進めます。

授業計画

- ① 生涯学習の意義と生涯学習社会の構築
- ② 生涯学習・社会教育行政の展開
- ③ 生涯学習・社会教育指導者の役割
- ④ 地域社会と生涯学習の実際 事例研究
- ⑤～⑧自分たちの住んでいる（ふるさと・三重県等）まちでの実際の生涯学習事例を集め研究します。
- ⑨ 三重県内生涯学習関連施設の実際 総合文化センター社会見学
- ⑩ 学社融合（学校教育と社会教育の融合）学校支援と生涯学習
- ⑩ 人権教育と生涯学習
- ⑪ 家庭教育と生涯学習
- ⑫～ ふるさとの地域課題解決に向けた生涯学習プログラム立案
- ⑬ 地域課題解決のための生涯学習プログラムの発表・評価

教材・テキスト・参考文献等

その都度資料を配布します

参考文献は講義中紹介。

成績評価方法

毎回小レポート提出60%、生涯学習プログラム立案・発表等40%による出席重要。毎回レポートが得点に。レポートは必ず授業の最後に回収。5回以上欠席は評価の対象外。つまり無効になります。

その他

自分のまち・三重県内の生涯学習イベント事業に関心をもって資料等を集めてください。

講義科目 : 差別と人権	単位数 : 2
マークシート略 : [差別人権]	学習形態 : 選択科目
担当 : 上田 浩	

講義のねらい

現代社会において重視されるようになってきた基本的人権の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようなになっているのか、等の問題です。労働者の企業での無権利状態、男女差別などの人権をめぐる現状についても考えたいと思います。

授業計画

基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。さらに、日本国憲法や世界人権宣言、子どもの権利条約の内容について理解を深め、現代社会での生存権、労働権、教育権をめぐる人権の実態などを検討していきたいと思えます。

1. 現代社会と人権：授業概説
2. 近代的人権の成立の歴史
3. ロックの人権思想
4. 近代的人権の特徴と課題
5. 近代的人権の問題点
6. 人権の拡張の過程
7. 基本的人権と日本国憲法
8. 現代の人権の諸問題
9. 職場における人権
10. ワーキング・プアを考える
11. 男女賃金格差の現状
12. DVと女性の権利
13. 不登校・いじめと子どもの権利
14. 児童虐待と社会
15. まとめ

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。授業時にプリントを配布します。

参考文献については授業時に指示します。

成績評価方法

レポート試験を行い、授業態度と出席率によって評価します。

出席を重視し、授業内容について考えたことや意見を書いてもらいます。

6回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

レポート試験60%、出席・意見などの平常点40%

その他

講義科目 : ジェンダー論	単位数 : 2
マークシート略 : [ジェンダ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 松田 いりあ	

講義のねらい

この授業では、性別に関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的条件下で定着したものであることを、ジェンダー概念を通じて明らかにする。同時に性をめぐる二分法が世代を越えて伝えられる仕組みについても、生活感覚とともに理解することを目指す。

授業計画

- 第1回 はじめに：この授業の概要の説明
- 第2回 ジェンダーとは(1)
- 第3回 ジェンダーとは(2)
- 第3回 社会化(1)
- 第4回 社会化(2)
- 第5回 家族(1)
- 第6回 家族(2)
- 第7回 社会史とジェンダー
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 社会階級・階層とジェンダー
- 第10回 アンペイド・ワーク
- 第11回 メディアとジェンダー
- 第12回 サブカルチャーとジェンダー
- 第13回 身体とジェンダー(1)
- 第14回 身体とジェンダー(2)
- 第15回 まとめ：この授業をふりかえって

教材・テキスト・参考文献等

木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房）

成績評価方法

レポート70% 授業中課題30%

その他

成績評価の対象者になるためには、規定の出席回数を満たす必要がある。

講義科目 : 歴史学	単位数 : 2
マーケット略 : [歴史学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 望月 秀人	

講義のねらい

西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思ひます。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大航海時代と世界の一体化
- 第3回 「宗教戦争」と「世俗化」
- 第4回 封建制から「絶対王政」へ
- 第5回 「絶対王政」の意義と限界
- 第6回 出版資本主義と啓蒙
- 第7回 「市民革命」と近代国家
- 第8回 ナショナリズムと国境問題
- 第9回 工業化とその影響
- 第10回 第一次世界大戦の衝撃
- 第11回 大恐慌の時代
- 第12回 ファシズムの脅威
- 第13回 第二次世界大戦
- 第14回 社会主義と冷戦
- 第15回 グローバル化とその課題

教材・テキスト・参考文献等

テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、高校世界史教科書程度のものは持っていた方が良いでしょう。

成績評価方法

試験60%、レポート40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。5回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。

その他

言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。

講義科目	: 地理学(地誌を含む)	単位数	: 2
マークシート略	: [地理学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 山崎 智博		

講義のねらい

- ・ 私たちが生活している地域はそれぞれが様々な特徴を持っています。本講義ではそうした地域がどのようにして形成されてきたかをみていくことにより、地域の特徴や抱えている問題等を考えていきます。

授業計画

- 第1回 地域・都市の形成（ガイダンス）
- 第2回 明治維新と都市の近代化
- 第3回 市区改正と都市計画法の制定①
- 第4回 市区改正と都市計画法の制定②
- 第5回 関東大震災復興都市計画①
- 第6回 関東大震災復興都市計画②
- 第7回 戦時期の都市・地域①
- 第8回 戦時期の都市・地域②
- 第9回 戦災復興計画①
- 第10回 戦災復興計画②
- 第11回 現代地域開発政策の展開①
- 第12回 現代地域開発政策の展開②
- 第13回 地域の現状と課題①
- 第14回 地域の現状と課題②
- 第15回 まとめと確認（筆記試験）

教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキストは使用しません。
- ・ 参考文献はその都度紹介しますが、以下に2冊挙げておきます。
藤井正・神谷浩夫編著「よくわかる都市地理学」ミネルヴァ書房 2014年
平岡昭利・野間晴雄編「近畿 I 地図で読む百年」古今書院 2006年

成績評価方法

- ・ 試験（85%）、出席（15%）を基準に判断します。

その他

- ・ 地図、写真、映像等を適宜使用する予定です。
- ・ 津市など三重県に関する内容も折に触れ取り上げる予定です。

講義科目 : 哲学	単位数 : 2
マークシート略 : [哲学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 吉本 陵	

講義のねらい

二十世紀後半になって急速に発展してきた医療技術によって、私たちは生と死の意味について再考するの必要に迫られている。本講義では、生命倫理学ないし医療倫理学の基本的な論点を確認し、そこから浮かび上がる私たちの生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス&イントロダクション
- 第2回 哲学的・倫理的なものの考え方
- 第3回 生命倫理学の成立とその背景 (Ⅰ)
- 第4回 生命倫理学の成立とその背景 (Ⅱ)
- 第5回 生命倫理学の成立とその背景 (Ⅲ)
- 第6回 インフォームドコンセントの可能性 (Ⅰ)
- 第7回 インフォームドコンセントの可能性 (Ⅱ)
- 第8回 インフォームドコンセントの可能性 (Ⅲ)
- 第9回 ケアの倫理 (Ⅰ)
- 第10回 ケアの倫理 (Ⅱ)
- 第11回 ケアの倫理 (Ⅲ)
- 第12回 脳死の倫理的問題 (Ⅰ)
- 第13回 脳死の倫理的問題 (Ⅱ)
- 第14回 脳死の倫理的問題 (Ⅲ)
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。

成績評価方法

論述形式の試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。五回以上の欠席が認められた場合には評価の対象外とする。

その他

講義形式で行う。各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。

講義科目 : 文学 I	単位数 : 2
マークシート略 : [文学 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

講義のねらい

文学作品の中には、ただ読まれるだけでなく、他の芸術家の創作意欲を刺激するようなものが多々あります。この講義では有名なヨーロッパの文学作品を取り上げて、その作者や時代背景について学び、ヨーロッパの文学や文化に関する知識を深めたいと思います。作品世界のイメージを広げるために、講義ではそれらの作品や作者に関する解説だけでなく、文学から派生した音楽や映像作品などの鑑賞も行う予定です。

授業計画 ()は取り上げる予定の作家、作品

第1回	ガイダンス、資料配布
2回	シェイクスピアの悲劇 (『ロミオとジュリエット』)
3回	『ロミオとジュリエット』2
4回	『ロミオとジュリエット』3
5回	シェイクスピアの喜劇 (『夏の夜の夢』)
6回	『夏の夜の夢』2
7回	民衆本の世界 (『ティル・オイレンシュピーゲル』)
8回	伝説と文学1 (民衆本『ファウスト博士』)
9回	伝説と文学2 (モリエール『ドン・ジュアン』)
10回	文学とオペラ1 (メリメ『カルメン』)
11回	文学とオペラ2 (デュマ・フィス『椿姫』1)
12回	『椿姫』2
13回	映画化された文学 (ベルンハルト・シュリンク『朗読者』1)
14回	『朗読者』2
15回	まとめとテスト

* 上記は予定です。取り上げる順序、内容等は変更される場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

必要な資料は事前に (あるいは当日) 印刷して配布します。
参考文献等は授業中に紹介します。

成績評価方法

出席状況とテストで評価します。授業内容に関連する短い課題文、感想、質問などを記入して提出してもらい、出席確認をします。全15回の授業のうち、10回以上出席しない場合は評価の対象外となります。

期末テストでは、授業で取り上げた作品についてテーマを事前にいくつか提示し、その中から一つを選んで800~1000文字程度の小論文を書いてもらいます。

その他 講義を聞くだけでなく、自ら作品を読んで味わってください。

講義科目 : 文学Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [文学Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

講義のねらい

18世紀から20世紀までのドイツ文学作品から、毎回テーマに沿った作品をいくつか取り上げ、解説してゆきます。ドイツ文学にはあまりなじみがないという人が多いと思いますので、作家やその作品が生まれた時代背景などから説明します。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学作品の味わい方に正解はありません。読む人それぞれが等身大で楽しめば良いのです。授業では作品をより親しみやすく読むための糸口を示してゆきたいと思います。

授業計画 ()は取り上げる予定の主な作品

第1回	ガイダンス、資料配布、ドイツ文学概観
2回	ドイツ文学概観
3回	ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (人物と時代背景)
4回	ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (『ファウスト』)
5回	ハインリヒ・ハイネの詩と音楽
6回	古いしがらみからの脱却 (W. ミュラー『冬の旅』)
7回	「ドイツ」を求める機運 (『グリム童話』)
8回	童話の解釈 (『グリム童話』2)
9回	イメージから生まれる言葉 (J. ケルナー『クレクソグラフィ』)
10回	不条理な文学 (フランツ・カフカ『変身』『訴訟』など)
11回	子供の文学1 (エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』)
12回	子供の文学2 (J. シュपीーリ『ハイジの修行遍歴時代』)
13回	時間の文学 (M. エンデ『モモ』)
14回	自分を見つめる文学 (P. ジュースキント『コントラバス』など)
15回	まとめとテスト

* 上記は予定です。取り上げる順序、内容等は変更される場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

必要な資料は事前に (あるいは当日) 印刷して配布します。
参考文献等は授業中に紹介します。

成績評価方法

出席状況とテストで評価します。授業内容に関連する短い課題文、感想、意見、質問などを記入して提出してもらい、出席確認をします。全15回の授業のうち、10回以上出席しない場合は評価の対象外となります。
期末テストでは、授業で取り上げた作品についてテーマを事前にいくつか提示し、その中から一つを選んで800~1000文字程度の小論文を書いてもらいます。

その他

講義を聞くだけでなく、自ら作品を読んで味わってください。

講義科目 : 美学	単位数 : 2
マークシート略 : [美学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 岡野 智子	

講義のねらい テーマ「日本の意匠—暮らしを彩るデザインの諸相」

日本の調度や衣装には、古来様々な意匠=デザインが施されてきた。それらは四季折々の身近な花鳥風月をはじめ、物語や和歌などの古典文学、また歌舞伎などの芸能とも深い関わりをもつ。本講義では日本の美意識を象徴する意匠の成立と展開につき、主に絵画や工芸品を通じて多方面から考察する。今日も見出される伝統的な意匠の意義を知ることは、個性的な表現を求められる現代においてこそ深い示唆となり得よう。

授業計画

- | | | |
|----|-------------------|------------------|
| 1 | 日本美術の成立1 (縄文～平安) | 日本美術の代表作を辿り流れを概観 |
| 2 | 日本美術の成立2 (平安～江戸) | 日本美術の代表作を辿り流れを概観 |
| 3 | 吉祥の意匠—福を招く図様— | 中国と日本の吉事の図様を比較 |
| 4 | 桜の意匠—桜への想いとその表象— | 桜の意匠が示す日本の精神的風土 |
| 5 | 涼を呼ぶ意匠—実用と装飾の出会い | 夏の調度に施された工夫と美 |
| 6 | 秋を彩る意匠—情趣と洗練の美— | 秋草、月など情趣に富む意匠の魅力 |
| 7 | 冬を楽しむ意匠—雪の姿さまざま— | 雪の特性を生かした図様の特徴 |
| 8 | 五節句1—邪を祓い季節を愉しむ— | 正月・上巳・端午の成立と図様 |
| 9 | 五節句2—邪を祓い季節を愉しむ— | 七夕・重陽の成立と図様 |
| 10 | 月次の花鳥と行事—歌絵の広がり— | 各月を象徴する図様と和歌の関わり |
| 11 | 伊勢物語の意匠—燕子花と問えば— | 物語の場面を想起させる図様の成立 |
| 12 | 源氏物語の意匠—留守模様遊ぶ— | 婚礼調度に施された源氏意匠の役割 |
| 13 | 歌舞伎の意匠—粹と飾りの美意識— | 舞台と役者の織り成す江戸の美 |
| 14 | 動物の意匠—霊獣からペットまで— | 動物と人との関わりが育んだ意匠 |
| 15 | 渡来の意匠—憧れの南蛮ファッション | 最新流行とされた異国風のモチーフ |

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献は『日本の意匠』、『続日本の意匠』シリーズ (京都書院)、『日本の文様』シリーズ (小学館)、『カラー版 日本美術史』 (美術出版社)、『すぐわかる日本の美術』 (東京美術) 他このシリーズ、ほか、最初の授業で提示する。

成績評価方法

出欠票の代わりに毎回講義で触れた作品の中から1点を選びコメント提出を求める。受講者は提出回数が原則として10回以上の者のみ④の提出資格が得られる。評価は①出席点25% ②コメント内容の評価25% ③事前事後の自己学習として全国各地の展覧会等の見学レポートの提出25% ④レポート (②・③を応用した独自の展覧会企画案) 25%

その他

日本で育まれてきた美意識や伝統の背景にある多様な文化。その成立と魅力を知ることが即ち自身を知ることと気づき、豊かな人間性の構築に役立ててほしい。授業の予習復習として、各自で美術館・博物館等で実作品を見ることを強く推奨する。

講義科目 :比較文化論	単位数 :2
マークシート略 :〔比較文化〕	学習形態 :選択科目
担当 :竹添 敦子	

講義のねらい

- ・ 西欧と日本を比較しながら、身近な文化現象を再考し、その背後にあるものとの見え方、考え方の違いを探ります。本年度は「余暇・娯楽」を軸に東西文化を比較します。
- ・ 当たり前だと思っている現象も、歴史をさかのぼると興味深い事実が見えてきます。また私たちの「常識」について、一度立ちどまってみると、思いもかけない発見があります。こういったことを確認するために、毎回映像を使用しながら、現在の私たちの文化を考えます。
- ・ 「伝統」や「慣習」のことで片づけられていた現象を再検討します。自分自身の感覚と理解を再確認する作業を通じ、「文化」とは何かを考察します。

授業計画

第1回 文化を比較するとは	第9回 日本の娯楽（旅と温泉）
第2回 おとぎ話の比較（日本の昔話）	第10回 西欧の娯楽（旅行と教養）
第3回 おとぎ話の比較（西欧の昔話）	第11回 日本の娯楽（花鳥風月と演芸）
第4回 余暇と娯楽（「見る」と「する」）	第12回 西欧の娯楽（カフェ文化）
第5回 日本の娯楽（歌舞伎・舞踊）	第13回 近代の余暇と文化（百貨店）
第6回 西欧の娯楽（オペラ・バレエ）	第14回 現代の余暇と文化（遊園地）
第7回 日本の娯楽（カルタ・釣り）	第15回 まとめと確認（試験）
第8回 西欧の娯楽（競馬・スポーツ）	

教材・テキスト・参考文献等

- ・ 使用しません。
- ・ 自ら参考文献を探ることが重要な作業となります。指示に従い、いかに資料を探し、いかに客観的、批判的に資料を分析できるかを学んでください。

成績評価方法

- ・ 小レポート（毎回実施、70%）と最終試験（論述式、30%）を基準に評価します。
- ・ 出席を重視します（毎回、講義の最後に小レポートを課します。講義内容を確認し、かつ自分の意見をまとめるものです。この小レポートによって出席の確認をします。小レポートは採点して（5点満点）をつけて返却します。講義開始までに当日のレジюмеとともに各自とおいてください。
- ・ 5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。4回休んだ時点で名前の下にイエローラインがはいります。5回休むとレッドラインとなります。レッドライン以降欠席があると無資格となります。

講義科目 : 英会話	単位数 : 2
マークシート略 : [英会話]	学習形態 : 選択科目
担当 : John Dykes	

講義のねらい

This course is designed for beginner to low-intermediate students and will focus on spoken English. The aim is to provide a foundation in the structure of the language, gradually building students' understanding of the basic grammar, vocabulary and idioms required for general communication in English. Each unit of the textbook will take approximately 2 classes to complete and regular mini-tests will be given to monitor students' progress. Students ***must*** work together to practice the spoken language.

ONLY ENGLISH IS USED ON THIS COURSE.

授業計画

1. Introductions and orientation.
2. Hello Everybody.
3. Meeting people.
4. The world of work.
5. Take it easy!
6. Where do you live?
7. Can you speak English?
8. Review & end of first semester test
9. Then and now.
10. A date to remember.
11. Food you like!
12. Looking Good!
13. Life's an adventure!
14. Have you ever?
15. Review & end of second semester test

教材・テキスト・参考文献等

American Headway 1 (2nd edition. ISBN 978-0-19-472945)

By Liz and John Soars (Oxford University Press)

成績評価方法

Work in class – 60%

(A positive attitude and a willingness to try are essential for conversation)

Tests – 40%

その他

講義科目 : 英語講読	単位数 : 2
マークシート略 : [英語講読]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村井 美代子	

講義のねらい

- ・ 現代社会が抱える様々な問題を提起し、「いかに対応するか (HOW TO)」を論じたレベル別リーディングテキストを使用する。各章読み切り形式で、約 400 語にまとめられ、TOEICスコア 400～600 点程度をおおよその基準にしている。
- ・ 各章にはリーディング課題だけでなく、語彙や文法、イディオムに関連した問題や、正答を音声で確認する問題なども用意されている。これまでの英語学習の基礎の上に、実践的な読み取り、聞き取りの力を身につけてほしい。

授業計画

- ・ 1つの章を2回ないし3回の授業で読了する予定。ただし、受講生の学習の進捗度などによって、授業進行の速度は随時調整する。

第1回	オリエンテーション	第16回	第6章 オンライン学習
2回	第1章 学習スキルと習慣	17回	第6章
3回	第1章	18回	第7章 スマホ活用
4回	第1章・第2章	19回	第7章
5回	第2章 締切の遵守	20回	第7章・8章
6回	第2章	21回	第8章 対人関係
7回	第3章 旅行スキル	22回	第8章
8回	第3章	23回	第9章 会議の効率化
9回	第3章・第4章	24回	第9章
10回	第4章 飛行恐怖症	25回	第9章・第10章
11回	第4章	26回	第10章 宣伝広告
12回	第5章 うそ発見器	27回	第10章
13回	第5章	28回	第11章 チップについて
14回	第5章・6章	29回	第11章
15回	前期学習内容のまとめ	30回	後期学習内容のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

『Readers' Forum 1 HOW-TO ENGLISH』 (南雲堂)

成績評価方法

- ・ 毎回出席をとる。
- ・ 前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・ 成績は前後期試験を中心にして、出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点 = 7 : 3

講義科目	: 総合英語	単位数	: 2
マークシート略	: [総合英語]	学習形態	: 選択科目
担当	: 大蔵 香代子		

講義のねらい

- ・本講義ではTOEICテスト問題演習を通して、TOEICテストのスコアアップを目指す。
TOEIC問題を教材として、語彙力・文法・リスニング・リーディングを含む総合的な英語コミュニケーション、英語運用能力の向上を目指す。

授業計画

- ・TOEIC頻出重要語句の意味・発音・品詞・文の構造の基礎力を養成する。
- ・TOEICテストの出題傾向に慣れ、各パートの攻略法を学ぶ。
- ・TOEICテスト形式を解き、学習内容の確認・定着を図る。
- ・ユニット毎に復習テストまたは自己学習課題を提出する。

前 期		後 期	
第 1 回	イントロダクション Listening/Reading攻略法	第 1 回	Unit 11(1)
第 2 回	Unit 1(1)	第 2 回	Unit 11(2)
第 3 回	Unit 1(2)	第 3 回	Unit 12
第 4 回	Unit 2(1)	第 4 回	Unit 13
第 5 回	Unit 2(2)	第 5 回	Unit 14
第 6 回	Unit 3(1)	第 6 回	Unit 15
第 7 回	Unit 3(2)	第 7 回	Unit 16
第 8 回	Unit 4	第 8 回	Unit 17
第 9 回	Unit 5	第 9 回	Unit 18(1)
第10回	Unit 6	第10回	Unit 18(2)
第11回	Unit 7	第11回	Unit 19(1)
第12回	Unit 8	第12回	Unit 19(2)
第13回	Unit 9	第13回	Unit 20(1)
第14回	Unit 10	第14回	Unit 20(2)
第15回	Practice Test (1)	第15回	Practice Test (2)

教材・テキスト

- ・「Step-by-Step Prep for the TOEIC L&R TEST THE TOEIC Step 2 Intermediate Course」(株式会社アルク大学教材編集部)
- ・40% Practice Tests (1)(2)
- ・40% 復習テスト・課題提出
- ・20% 出席・授業参加

その他

- ・復習テストの追・再試及び課題提出期限の延長はありません。
- ・講義時間に相当する自宅・自己学習時間を必要とします。辞書必携。
- ・授業計画はクラスの進捗によって変更することがあります。

講義科目 : 独語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [独語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

講義のねらい

前期では独語Ⅰで扱えなかった文法の続きを勉強して、基礎的な文法を一通り学んだ後、後期はドイツ語検定試験の対策問題や、平易なドイツ語の読解などを行いながら、文法の定着をはかります。リスニングの練習も行い、ドイツ語検定試験4級～3級程度の力をつけることを目標とします。

授業計画

第1回	ガイダンス、独語Ⅰの復習	第16回	前期の復習
2回	独語Ⅰの復習2	17回	ドイツ語検定対策(4級)1
3回	独語Ⅰの復習3	18回	ドイツ語検定対策(4級)2
4回	独語Ⅰの復習4	19回	ドイツ語検定対策(4級)3
5回	過去形と過去分詞	20回	ドイツ語を読む1
6回	現在完了形1	21回	ドイツ語を読む2
7回	現在完了形2	22回	ドイツ語を読む3
8回	受動態	23回	ドイツ語検定対策(3級)1
9回	形容詞	24回	ドイツ語検定対策(3級)2
10回	形容詞の比較表現	25回	ドイツ語検定対策(3級)3
11回	再帰代名詞	26回	ドイツ語を読む4
12回	zu不定詞	27回	ドイツ語を読む5
13回	関係代名詞	28回	ドイツ語を読む6
14回	接続法	29回	ドイツ語を読む7
15回	まとめとテスト	30回	まとめとテスト

* 上記は予定です。授業の進度、内容は受講者の理解度に応じて調整します。

教材・テキスト・参考文献等

- ・ 独和辞典(独語Ⅰで使用したもの)
- ・ 教材は必要なものを印刷して配布します。
- ・ 参考文献: 独語Ⅰで使用した教科書。その他は授業時に随時紹介します。

成績評価方法

1. 前期、後期ともに10回以上授業に出席して勉強すること。
 2. 学期末テストで平均60点以上とること。
- 1.と2.の条件を両方満たせば単位取得できます。
評価は各学期末のテストの点数に基づきます。

その他

辞書は必ず毎回持参して、気になる単語は自主的に調べてください。
独語Ⅰの単位を取得していることを前提に授業を行いますので、ドイツ語の学習経験が無い方には履修をおすすめしません。

講義科目 : 仏語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [仏語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 岩本 篤子	

講義のねらい

昨年度の仏語Ⅰに続き、様々な場面での基本的な会話表現を学ぶ。

授業計画

第1回	仏語Ⅰで習ったことの確認	第16回	13課 過去のことを話す
2回	仏語Ⅰの対話文復習	17回	13課の続き
3回	8課 興味を述べる	18回	13課の続き
4回	8課の続き	19回	2種類の過去形の確認
5回	9課 誘う	20回	過去形の練習問題
6回	9課の続き	21回	仏検4級をめざして2
7回	9課の続き	22回	14課 仮定する
8回	綴り字の読み方と音節の復習	23回	14課の続き
9回	10課 天候と時刻	24回	仮定表現の練習問題
10回	10課の続き	25回	重要な動詞の復習
11回	仏検4級をめざして1	26回	基本動詞を用いた役に立つ表現
12回	11課 数量を表す	27回	役に立つ表現の確認
13回	11課の続き	28回	仏語Ⅱの対話文復習
14回	11課の続き	29回	講読部分の読み復習
15回	12課 比較する	30回	全体の復習と小テスト最終回

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田 裕二「パリ・ボルドー」 朝日出版社

成績評価方法

- ①授業中に行う小テストの平均点が60点以上あれば、合格とする。
- ②6回以上欠席すると単位を認めない。

その他

せっかく始めたフランス語をやめてしまうのはもったいないことです。仏語Ⅰの成績は全く関係ありません。必ず何かの役に立つと思って、頑張つて続けてみましょう！（フランス語初心者の方の受講はご遠慮ください）

講義科目 : 中国語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [中国語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 花尻 奈緒子	

講義のねらい

中国語Ⅰで学習した文法事項を踏まえ、簡単なリスニングと会話のトレーニングを行う。語彙や表現を増やし、中国語の背景にある文化や社会についても学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	第八課 航空券の予約1
2回	第一課 基礎発音1	17回	第八課 航空券の予約2
3回	第一課 基礎発音2	18回	第九課 定期便の遅延1
4回	第二課 基礎発音3	19回	第九課 定期便の遅延2
5回	第二課 基礎発音4	20回	第十課 虎の威を借る狐1
6回	第三課 基礎発音5	21回	第十課 虎の威を借る狐2
7回	第三課 基礎発音6	22回	第十課 虎の威を借る狐3
8回	第四課 あいさつ1	23回	第十一課 ウサギとカメ1
9回	第四課 あいさつ2	24回	第十一課 ウサギとカメ2
10回	第五課 自己紹介1	25回	第十二課 運転できますか1
11回	第五課 自己紹介2	26回	第十二課 運転できますか2
12回	第六課 日本の春はどう？1	27回	第十三課 何をしてるの？1
13回	第六課 日本の春はどう？2	28回	第十三課 何をしてるの？2
14回	第七課 ご飯は食べた？1	29回	第十四課 差不多先生1
15回	第七課 ご飯は食べた？2	30回	第十四課 差不多先生2

教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキスト—中国語のことばと文化—」

成績評価方法

出席および前・後期の期末試験

その他

予習復習を欠かさず行うこと。中国語Ⅰとセット履修も可能です。

講義科目	: 地域史	単位数	: 2
マークシート略	: [地域史]	学習形態	: 選択科目
担当	: 鈴木 えりも		

講義のねらい

- ① 三重地域の近世・近代の歴史を学ぶために必要な基礎知識を身につける
- ② 三重地域が近世・近代にどのような特徴を持つ地域であったのか考える
- ③ 史料を基礎としてそこから何が読みとれるのかを学び考える
- ④ 自分の育った地域の歴史に関心を持つ
- ⑤ 文献に基づいて自分の考えをまとめる方法を身につける

授業計画

- 第1回 講義の進め方、時代の区切り
- 第2回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 1
- 第3回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 2
- 第4回 三重地域の諸蕃
- 第5回 海運と河村瑞賢
- 第6回 近世の三重地域周辺の物流と伊勢商人の活躍
- 第7回 三重地域の村と町
- 第8回 三重地域の街道と宿場
- 第9回 伊勢神宮の近世とおかげまいり
- 第10回 近世の人々の暮し
- 第11回 近代のはじまり
- 第12回 三重地域の地租改正
- 第13回 三重地域の一揆
- 第14回 三重地域の自由民権運動
- 第15回 三重地域の災害

受講生の希望する事柄を取入れた講義を1回は行い、希望内容によって上記の適当な回と差替える。また学生の理解程度によって回数を増やしたり、講義の順序を入換えることもある

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。講義中に配布するプリントに即して講義を行う
参考文献は講義中に取上げた内容に即して紹介する

成績評価方法

レポートによって評価する。課題及び評価基準は講義中に随時伝達する
出欠はとるが、評価の参考とするにとどめる

その他

レポートの書き方・評価基準について、聞きのがす学生が多い。講義を欠席した場合は講義内容を出席者に確認するなど、各自注意を怠らないこと
欠席した場合、講義中に配布した資料を入手することを怠らない
講義に取入れてほしい内容、理解できなかった点等を発言するなどの積極性を望む

講義科目	:自治体行政特論	単位数	:2
マークシート略	:〔自治行政〕	学習形態	:選択科目
担当	:小野寺 一成		

講義のねらい

この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定している。

法経科では行政法、行政学、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目があるが、それらとあわせて受講することにより、現在の地方行財政に対する理解が深まることを期待している。

生活科学専攻では、地域政策論、地域福祉論Ⅰ、地域福祉論Ⅱ、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があるが、それらとあわせて受講することにより、現在の地方行政に対する理解が深まることを期待している。

特に公務員を志望する学生には、行政の現場で何が行われているのかを理解する格好の機会となると思われる。

授業計画(予定 順番は変更されます)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 津市の政策について(政策財務部政策課)
- 第3回 津市の教育について(教育委員会事務局)
- 第4回 文化・スポーツについて(スポーツ文化振興部)
- 第5回 産業振興(商工業/観光)について(商工観光部)
- 第6回 産業振興(農林水産業)について(農林水産部)
- 第7回 都市計画について(都市計画部)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 津市議会見学
- 第10回 財政について(政策財務部財政課)
- 第11回 環境行政について(環境部)
- 第12回 津市の福祉について(健康福祉部)
- 第13回 参加と協働のまちづくりについて(市民部)
- 第14回 自治体経営(市長)
- 第15回 最終まとめ

- 毎回の講義を聞いて、その概要、感想などをまとめた「講義ノート」を提出する。
- 6月津市議会を傍聴し、レポートを提出する。

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書・参考文献等の指定はない。毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。

成績評価方法

- ・出席状況、講義ノートの提出状況、議会傍聴レポートなどを総合して評価する。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

講義科目	: 農林体験セミナー	単位数	: 2
マークシート略	: [農林体験]	学習形態	: 選択科目
担当	: 石原 洋介		

この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に本学の学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林での講義・実習・体験学習を通じ、自然環境や農林業に対する理解を深めることを目的にしています。

①農場コースと、②演習林コースの2つのコースを設けます。6月に募集を行い、希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。なお、食費として実費が必要です。

(1) 農場コース 【土は生きている】 8月下旬実施予定

講義のねらい

- 土と食料生産の関係について地域特産物を素材にして包括的な理解を深めるための技術的経験を積む。

授業計画

- 生物資源学部付設農場で2泊3日にわたって講義、実習、体験学習を行います。
(第1日目) 第1回 授業の概要説明／第2回 地域特産農産物の概要／第3回 サイズの栽培管理／第4回 世界と日本の食料事情 (ナイトセミナー)
(第2日目) 第5回 イネの収穫／第6回 肉牛の肥育管理／第7回 豆腐作り／第8回 食の安全・安心と社会 (ナイトセミナー)
(第3日目) 第9回 茶の加工／第10回 温州ミカンの栽培管理／第11回 うどん作り／第12回 授業の総括

成績評価方法

- レポート70% 実習態度20% 出席10%の評価を総合判断する。

(2) 演習林コース 【森は生きている】 9月上旬実施予定

講義のねらい

森林で安全に行動するための基本を学び、また、演習林の役割や自然状態が維持されている現場で山地・森林・溪流の意義を理解する。また、林業の実際と林産加工の実践を学ぶ。

授業計画

- 生物資源学部付設演習林で2泊3日にわたって講義、実習、体験学習を行います。
(第1日目) 演習林の概要解説、諸注意事項／森林の多面的機能について林内学習／天然生林・二次林の植生観察／人工林施業の解説、溪流沿いの土砂災害見学
(第2日目) 映画WOODJOB!ロケ撮影と日本の森林・林業の課題学習／林業体験：人工林での小径木間伐／林産加工実習：コースター加工または丸太ベンチ製作／BBQ：野外活動＋木質資源のエネルギー活用と環境について学ぶ！／野生動物の被害観察
(第3日目) 環境学習：涼しい溪流環境散策とふりかえり学習／レポート作成／WOODJOB!ロケ地、御神木、木材市場などを経由し帰学

成績評価方法

- レポート、学習態度、出席などを総合的に評価する。

講義科目 : キャリア形成セミナー	単位数 : 2
マークシート略 : [キャリア]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村井 美代子	

講義のねらい

- ・自分のこれからの人生をいかにとらえ、いかに生きていくのかを考えます。
- ・「自分を知る」ことから始め、「社会を知る」ことへとつなぎます。
- ・職場、家庭、地域の一員として、将来の自身のあり方を考えます。
- ・本学の卒業生、あるいは様々な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通し、自身の人生を選びとってゆく力をつけます。（講師は毎回変わります。）
- ・具体的な仕事や人生観に触れながら、自身の職業観、勤労観を獲得し、卒業後の進路選択に役立てます。
- ・全講義を通して学ぶことで、自身のキャリアイメージを形成していきます。
- ・毎回、アンケート、質問票を兼ねた小レポートを提出し、文章を簡潔にまとめる力、適切な表現力をつけることを目指します。
- ・1年生の履修を原則とします。

授業計画

- ・講師の都合などによって前後することがあります。

第1回	キャリアとは何か（ガイダンス）
2回	自分を見つめる（自己分析をキャリア形成にいかそう）
3回	働くことの意味
4回	働くことの意味
5回	国際協力という仕事
6回	栄養士の現場で働く
7回	福祉の現場で働く
8回	建築士として働く
9回	企業から求められる人材とは
10回	働くことの意味
11回	労働者をとりまく環境を知る
12回	人生設計を考える
13回	地方公務員として働く
14回	地域を知る、地域で生きる
15回	まとめ（最終レポート作成）

教材・テキスト・参考文献等

- ・各講師より配布されるレジュメ、資料を使用します。

成績評価方法

- ・出席が基本です。出席状況や毎回の小レポート、最終レポートなどの提出状況、学習態度などから総合的に評価します。
- ・5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

講義科目	:食と観光実践	単位数	:2
マークシート略	: []	学習形態	:選択科目
担当	:石原 洋介		

講義のねらい

- ・この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に参加し、三重大生とともに受講することになります。
- ・開講形態は、合宿型（去年は2泊3日）です。全日程に参加することが受講の条件となります。
- ・本講義では、三重県をフィールドとして、「食と観光」をテーマに、現場見学とグループワーク、ディスカッションを実施し、地域課題の発見とそれに対する分析・考察を行います。
- ・今年度の実施内容の詳細は後日掲示にて発表します。
- ・本講義は通常の履修登録とは異なり、6月に履修希望者を募集し、希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。

講義科目	: 次世代産業実践	単位数	: 2
マーケット略	: []	学習形態	: 選択科目
担当	: 石原 洋介		

講義のねらい

- この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に参加し、三重大生とともに受講することになります。
- 開講形態は、合宿型（昨年は2泊3日）です。全日程に参加することが受講の条件となります。
- 本講義では、三重県をフィールドとして、「次世代産業」をテーマに現場見学とグループワーク、ディスカッション、実証実験を実施し、地域課題の発見とそれに対する分析・考察を行います。
- 今年度の実施内容の詳細は後日揭示にて発表します。
- 本講義は通常の履修登録とは異なり、6月に履修希望者を募集し、希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。

講義科目 : 民法 I	単位数 : 4
マークシート略 : [民法 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 川上 生馬	

講義のねらい

コンビニでの買い物, マイホーム購入のためのローン, 下宿先を借りる, 結婚するなど, 様々な場面で民法は登場してくる重要な法律です。本講義では, その中でも最も基本的なルールを定めている「民法総則」と所有権など物に関するルールが定められている「物権」について学習します。

これら民法の規定は, 民法を理解するうえでも非常に重要な内容となっていますので, 基本概念をしっかりと理解してもらいます。

さらに, 本講義では具体的な事例を多く取り上げ, どのような場面において民法を活用するのかもあわせて学習してもらうことで, 法的思考能力のトレーニングも行います。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	時効①時効とは
2回	権利能力・行為能力	17回	時効②時効の援用・放棄
3回	法律行為概論	18回	時効③取得時効
4回	法律行為①意思表示とは	19回	時効④消滅時効
5回	法律行為②心裡留保	20回	物権とは
6回	法律行為③虚偽表示	21回	所有権
7回	法律行為④錯誤	22回	占有権
8回	法律行為⑤詐欺・強迫	23回	地上権
9回	無効と取消し	24回	その他用益物権
10回	代理①代理とは	25回	担保物権とは
11回	代理②表見代理	26回	留置権
12回	代理③表見代理	27回	抵当権
13回	代理④無権代理	28回	総復習①
14回	条件・期限	29回	総復習②
15回	小テスト	30回	試験

教材・テキスト・参考文献等

講義中、教科書は使用しない。

参考文献については、初回講義時に紹介する。

六法は必ず持ってくること。

成績評価方法

出席20%、小テスト20%、試験60%で評価する。

その他

授業中は私語厳禁とする。

他の受講生の迷惑になる行為も同様に厳禁とする。

講義科目 : 民法Ⅲ	単位数 : 2
マークシート略 : [民法Ⅲ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 馬場 啓丞	

講義のねらい

民法のうち債権各論（契約法及び契約以外の債権発生原因）の分野を講義します。初学者を対象とし、主要な契約と不法行為を中心に、基本的な知識の体得を目指します。

契約法は、皆さんにとっても身近な分野です。物を買ったり、お金や部屋を借りたり、アルバイトをしたり、工事を頼んだりする行為は全て契約です。本講では、これらの契約の役割や当事者の権利義務を学びます。

また、何の契約関係もない人から損害を被った場合、交通事故などが典型ですが、加害者に対して損害賠償を請求できます。不法行為法がそのルールを定めており、本講ではそれについても学びます。

なお、私は弁護士ですので、民法の知識だけではなく、事例を用いるほか、私の経験談もお話ししたいと思います。

授業計画

第1回	ガイダンス
2回	契約の成立
3回	契約の効力
4回	契約の解除
5回	贈与・売買（1）
6回	売買（2）
7回	売買（3）
8回	交換・消費貸借・使用貸借
9回	賃貸借（1）
10回	賃貸借（2）
11回	雇用・請負・委任・その他の典型契約
12回	事務管理・不当利得・不法行為（1）
13回	不法行為（2）
14回	不法行為（3）
15回	筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

プリントを配布する予定。六法は必携。

参考書は、初回の授業で紹介する予定。

成績評価方法

出席点と筆記試験を考慮して評価します。

その他

特になし。

講義科目 : 家族法	単位数 : 4
マークシート略 : [家族法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 伊藤 裕	

講義のねらい

家族法（民法親族編、相続編）の規定内容について基本的な知識を得ることが直接のねらいだが、あわせて、夫婦別姓論議や生殖補助と親子関係、離婚と子ども、同性婚受容の世界的動向など個別の問題を取り上げ、現代社会における家族法問題の根底にある多様な価値観の交錯ぶりを考察する。

授業計画

第1回	家族法の意義、概要	家族法は何を規定する法か
2回	家族法改正の主要論点とこれまでの経緯	
3回	婚姻の成立要件、婚姻障害（婚姻適齢、再婚禁止期間）	
4回	婚姻の効果、夫婦の氏と子の氏／戸籍制度	
5回	離婚－協議離婚と裁判離婚／家族法資料の見方	
6回	離婚－離婚と子ども	養育費確保、面会交流 ハーグ条約
7回	親子法－親子関係の成立と効果、婚外子差別	
8回	生殖補助医療と親子関係	血縁と法的親子関係
9回	養子制度	
10回	特別養子制度	里親制度
11回	親権	後見 扶養
12回	相続法 1 相続人の範囲と順位、法定相続分	
13回	相続法 2 特別受益と寄与分／相続の承認と放棄、欠格と廃除	
14回	遺言制度 遺言の種類、様式、効力	
15回	相続・遺言の実際と問題点 相続と登記 相続税 まとめ	

教材・テキスト・参考文献等

千藤・床谷他『プリメール民法5 家族法』（最新版）法律文化社 2,500円＋税
ISBN 978-4-589-03595-0

成績評価方法

期末に記述式の試験またはレポートを実施する。正確な基礎知識を前提に、どのような問題意識をもって家族法問題に考察を巡らせたかを見せてもらう。評価基準は試験結果が100%。出席状況は加減材料として考慮する。

その他

昨今、生殖補助医療の進展や性別変更にもなう法的親子関係決定の問題、同性婚容認国の拡大、国際離婚における子の奪取の問題などが社会的関心を呼んでいる。無戸籍者問題も根源的解決の必要な問題として提起されている。こうしたトピックスに日頃から関心を持ち、その動向を注視してほしい。

講義科目 : 商法 I	単位数 : 4
マークシート略 : [商法 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 名島 利喜	

講義のねらい

会社、とりわけ株式会社は実は私たちの身近に存在している。それなのに、株式会社に関する法律＝株式会社法はほとんど知られていないのが実情ではないだろうか。しかしながら、ある意味では、これから社会に出る人たちにとって、株式会社法に関する知識は不可欠である。なぜなら、私たちの大多数は株式会社に労働の場を求め、生活手段の大部分を株式会社に依存しているからである。

本講義の主な目的は、そのような株式会社法の基本的な骨格と機能について理解してもらうことである。

授業計画

- 第1回 会社の意義・性質・種類
- 第2回 会社法の意義・法源・変遷
- 第3回 株式会社の意義と特質
- 第4回 株式会社の設立手続
- 第5回 株式の意義・内容・種類
- 第6回 株主総会
- 第7回 取締役・取締役会
- 第8回 代表取締役
- 第9回 監査役・監査役会
- 第10回 会計参与・会計監査人
- 第11回 株式会社の資金調達
- 第12回 会計帳簿・計算書類
- 第13回 資本金と準備金、剰余金の配当
- 第14回 組織再編、組織変更
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：特に指定しない（講義中に紹介する）

教材：最新版の六法（小型のものでよい）

成績評価方法

出席 5 %、中間小テスト 35 %、筆記試験 60 %

その他

株式会社法の制度的側面ばかりではなく、日本経済新聞に目を通したりして、わが国の会社経営の実状についても視野を広めてほしい。

講義科目	: 刑法	単位数	: 4
マークシート略	: [刑法]	学習形態	: 選択科目
担当	: 楠本 孝		

講義のねらい

刑法は、国家に刑罰権を付与する法であると同時に、国家刑罰権の限界を明確にすることによって、市民の権利を保障する法でもある。本講は、刑法の基本原則を理解し、それを踏まえて、マスコミ等でセンセーショナルに取り上げられる刑法現象を批判的に論評する目を養うことを目的とする。

近代刑法は、アンシャン・レジームの過酷な刑罰制度を克服するため、国家の刑罰権を抑制し、市民の人権を保障する諸原則を発達させてきた。ところが現代刑法は、この近代刑法の諸原則を修正して「現代社会のニーズ」に合わせる動きを見せている。この近代刑法原則の現代的変容とはどのようなもので、それは我々の社会にとってどのような意味を持っているのかを考えたい。

授業計画

- | | | | |
|----|--------------|----|-------------|
| 1 | 刑法と刑法学 | 2 | 刑罰論① |
| 3 | 刑罰論② | 4 | 犯罪論の基本原則 |
| 5 | 罪刑法定主義① | 6 | 罪刑法定主義② |
| 7 | 罪刑法定主義③ | 8 | 罪刑法定主義④ |
| 9 | 犯罪の定義と犯罪論の体系 | 10 | 行為と構成要件 |
| 11 | 故意 | 12 | 過失 |
| 13 | 錯誤 | 14 | 結果的加重犯 |
| 15 | 因果関係論 | 16 | 不作為犯 |
| 17 | 違法阻却事由 | 18 | 可罰的違法性 |
| 19 | 被害者の承諾／安楽死 | 20 | 正当防衛と緊急避難 |
| 21 | 正当防衛の不処罰根拠 | 22 | 緊急避難の不処罰根拠 |
| 23 | 責任／期待可能性 | 24 | 違法性の意識の可能性 |
| 25 | 責任能力 | 26 | 原因において自由な行為 |
| 27 | 未遂①－実行の着手 | 28 | 未遂②－不能犯／中止犯 |
| 29 | 共犯①－共犯の従属性 | 30 | 共犯②－共謀共同正犯 |

教材・テキスト・参考文献等

教科書：教科書は特に指定しない。ただし、六法は必携。

参考書として楠本孝『刑法解釈の方法と実践』（現代人文社）

また、毎回資料を配布するので、その整理を怠らないこと。

成績評価方法

最後の講義日に試験をし、その成績をベースに判断するが、小レポート（2回程度）の内容を加味して判断する。試験の成績80%、小レポート20%。

小レポートを出席チェックと誤解しないように。出席の確認はしない。レポートを提出しても、内容の無いものは評価しない。

再試験は行わない。

その他

講義科目 : 行政法	単位数 : 4
マークシート略 : [行政法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 藤枝 律子	

講義のねらい

社会保障、道路交通、ガス・水道・電気などの生活手段の整備や運営・管理にとどまらず、環境保全、消費者保護など様々な分野における公共的な仕事が、国や地方自治体によって担われている。現代社会に生きる我々にとって、行政は不可欠な存在である。しかしながら、一方では、「官から民へ」と民間化が声高に叫ばれており、改めて行政の役割とは何かが問われるようになってきている。本講義では、こうした現代的状況を視野に入れつつ、多くの判例に目を通しながら行政とは何か、行政法とは何かを考えていきたい。

授業計画

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 現代行政と行政法 | 16. 行政行為③ |
| 2. 行政法の内容 | 17. 行政行為④ |
| 3. 法治主義 | 18. 行政行為⑤ |
| 4. 行政法の法源 | 19. 行政行為⑥ |
| 5. 行政法の諸原則 | 20. 行政行為⑦ |
| 6. 行政計画① | 21. 行政指導① |
| 7. 行政計画② | 22. 行政指導② |
| 8. 行政計画③ | 23. 行政の実効性を確保する手段① |
| 9. 行政計画④ | 24. 行政の実効性を確保する手段② |
| 10. 行政準則① | 25. 行政の実効性を確保する手段③ |
| 11. 行政準則② | 26. 行政救済① |
| 12. 行政準則③ | 27. 行政救済② |
| 13. 行政準則④ | 28. 行政救済③ |
| 14. 行政行為① | 29. まとめと確認① |
| 15. 行政行為② | 30. まとめと確認② |

(ただし、進行状況等により変更する場合があります。)

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書、参考文献等は、初回講義時に提示をする。
- ・講義時に、レジュメ、資料を配布する。
- ・『ポケット六法』等コンパクトなものでよいので六法を持ってくること。

成績評価方法

- ・記述式の確認テスト70%、および平常点30%で評価する。

その他

講義科目	: 労働法	単位数	: 4
マーケット略	: [労働法]	学習形態	: 選択科目
担当	: 川崎 航史郎		

講義のねらい

近年、「ワーキング・プア」「長時間労働による過労死・過労自殺」「パワハラ・セクハラ」など労働問題が社会の注目を集めています。厳しい労働状況の中、学生諸君は働くことを余儀なくされています。しかし、働く労働者に対してまっとうな労働条件を保障することは国・企業の義務・責任です。戦後の日本社会は、憲法で「個人の尊重・幸福追求の権利」(憲法13条)を謳い、さらに「人間らしい生活を営む権利」(憲法25条1項)を保障しました。労働法はこれらの憲法の規定を受け、労働者が働く時に守られるべきルール(憲法27条2項)を定めました。労働法を勉強することは、働くときに人間らしい生活を送るための力となります。本講義は、労働法の基本的仕組みを解説し、必要となる知識と、法的な解決方法を身につけることを目指します。また、講義は、リアクションペーパーを用いて①予習②予習個所の講義③講義中に2・3の課題を示し、回答を記入する(その際、グループディスカッションを行う場合もある)④質問や感想、復習なども記入、⑤次週以降に講師から回答を行う、という流れで行います。教科書の予習とまとめがほぼ毎週あります。

授業計画

第1回	労働法の仕組みと履行確保	第16回	健康・安全衛生
2回	雇用の成立①労働者・使用者とは誰か	17回	労働災害への補償
3回	雇用の成立②採用過程	18回	非正規労働①有期契約
4回	労働契約の権利義務	19回	非正規労働②パート労働
5回	懲戒制度	20回	非正規労働③派遣労働
6回	労働条件の決定①労使対等決定原則	21回	雇用確保策と職業能力形成
7回	労働条件の決定②就業規則	22回	労働組合
8回	労働条件の変更①合意変更	23回	組合活動
9回	労働条件の変更②就業規則	24回	不当労働行為①意義
10回	雇用の終了	25回	不当労働行為②救済
11回	賃金	26回	団体交渉
12回	労働時間規制と休息①	27回	労働協約
13回	労働時間規制と休息②	28回	争議行為
14回	職業生活と私生活保障	29回	労働法の課題
15回	雇用差別の禁止	30回	試験

教材・テキスト・参考文献等

講義の最初に指示します。

成績評価方法

筆記試験70%、コメントペーパーへの記述内容30%。

その他

積極的に授業参加ができるように、予習をすることが重要です。「社会保障法」「人的資源管理論」「社会福祉論」なども受講することが望ましいです。

講義科目 : 国際法	単位数 : 4
マークシート略 : [国際法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 保井 健呉	

講義のねらい

国際法は国際社会の秩序を維持することを目的とした法律です。国と国の関係がますます緊密になる今日、国際法の重要性は計り知れません。本講義では、国際社会を規律する国際法の枠組みを学び、国際社会の問題を国際法の観点から見るができるようになることを目指します。

授業計画

第1回	国際法の基礎知識
2回	国際法の主体
3回	国家領域
4回	条約と法源
5回	国際法と国内法の関係
6回	国際法と個人
7回	国家責任
8回	紛争の平和的解決
9回	国家の独立と承認
10回	国際機構の国際法
11回	外交関係の国際法
12回	海洋に関する国際法
13回	国際化地域
14回	紛争の強力的解決
15回	まとめと確認（筆記試験）

教材・テキスト・参考文献等

<テキスト>

- ・ 芹田健太郎（編集代表）『コンパクト学習条約集 第2版』信山社、2014年

<参考文献>

- ・ 杉原高嶺・酒井啓亘（編）『国際法基本判例50 第2版』三省堂、2014年

成績評価方法

- ・ 期末試験と平常点（出席点及び講義中の小テスト）で評価します。

その他

- ・ 講義では、時事の国際法に関する問題を取り扱うことがあります。

講義科目 : 法哲学	単位数 : 4
マークシート略 : [法哲学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小林 和之	

講義のねらい

具体的な問題に即して何が「正しい」かを考える力を養うことを目標とする。講義では、脳死・臓器移植問題のような鋭く価値観が対立する問題を通じて、異なる価値観をもった多数の個人がよりよく生きていくことのできる法システムについて考える。

授業計画

1	導入	法哲学の学問的性質
2	自由I	公と私：名をめぐって
3	自由II	公と私：氏をめぐって
4	自由III	婚姻を法で定める意味
5	責任I	過失責任の近代と現代
6	責任II	厳格責任と損失の分配
7	正	メタ価値
8	事実I	社会的決定の問題
9	事実II	裁判システム
10	規範	自由と限界
11	部分社会	企業倫理と法
12	個人と社会	内部告発と文化
13	文化	著作権の理念と現実
14	国家	道具と公共性
15	民主主義	必然的衆愚制の問題

※計画は変更の可能性あり

毎回講義内容についてのレポート(小論文)を課す。原則として翌週の授業の最初にレポートについて講評を行う。理解が不十分だと判断した場合は、先に進まずに同じテーマを別の角度から取り上げて理解の徹底をはかる。

教材・テキスト・参考文献等

なし

成績評価方法

授業時間中に書いたレポート(小論文)と筆記試験の結果を総合評価する。

その他

講義科目	: 税法	単位数	: 2
マーケット略	: [税法]	学習形態	: 選択科目
担当	: 今井 富久翁		

講義のねらい

①税金とはどういうもので、税金はなぜ必要なのか?といった「税金」の意義について解説し、税に関する知識の習得と理解を深めることを目標とします。

授業計画

- 第1回 租税とは?
- 第2回 租税法の原則
- 第3回 租税法の法源
- 第4回 租税法の解釈
- 第5回 所得税法①
- 第6回 所得税法②
- 第7回 法人税法①
- 第8回 法人税法②
- 第9回 消費税法①
- 第10回 消費税法②
- 第11回 相続税法
- 第12回 地方税法
- 第13回 国際課税
- 第14回 租税手続法
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

講義で使用する教材は、レジュメを作成します。

参考文献として、

「租税法」：金子 宏：弘文堂

「税法」法律学全集5：清永 敬次：ミネルヴァ書房

「税金の実務教室」：森下 幹夫：大蔵財務協会

成績評価方法

理解度を筆記試験で判断し、及第点未満の場合は、出席状況や受講態度などを考慮します。

その他

わが国の租税制度（＝申告納税制度）が円滑且つ民主的に運営されるために、国民の三大義務の一つである「納税義務」を理解し、税に関する関心を持ってもらえるように講義します。

講義科目 : 消費者法	単位数 : 2
マージン略 : [消費者法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村田 雄介	

講義のねらい

- ・「消費者」問題が、民法を中心とする一般の法理論によってどのように捉えられているのか、そこには、どのような問題・限界が存在するのかを理解すること。
- ・「消費者」問題が、「消費者法」によってどのように規律されようとしているのか、そこには、どのような基本的考え方があるのかを理解し、「消費者」及び「消費者法」の法的な意義を明らかにすること。
- ・個々の法律や条文の解釈というよりも、「生きた消費者法」と「消費者法の基本原理」を学ぶこと。

授業計画（予定）

第1回	ガイダンス、「消費者法」とは何か
2回	全法体系の中の「消費者法」の位置づけ
3回	一般法としての「民法」と特別法としての「消費者法」
4回	「民法」概説
5回	消費者契約① 契約理論
6回	消費者契約② 意思表示
7回	消費者契約③ 契約の拘束力からの解放
8回	消費者法① 特定商取引に関する法律Ⅰ
9回	消費者法① 特定商取引に関する法律Ⅱ
10回	消費者法② 割賦販売法Ⅰ
11回	消費者法② 割賦販売法Ⅱ
12回	消費者法③ 消費者信用
13回	消費者法④ 消費者契約法
14回	消費者法⑤ 製造物責任法
15回	筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

レジュメに基づいて講義をする。一般的な文献及び六法については初回の授業で、その他の重要な文献については各回の授業で適宜紹介する。

成績評価方法

平常点（40%）、筆記試験及び課題レポート（60%）

その他

- ・民法等につき知識を有していないことを前提に対話をしながら授業を進める。

講義科目 : 政治学原論	単位数 : 4
マージット略 : [政治原論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長澤 高明	

講義のねらい

現代政治を理解するための基礎概念と考え方の習得を目標とする。時事問題を講義冒頭に取り上げて解説する。政治は苦手だという人も、この講義を受ければ興味が湧いてくるはずである。

授業計画

テキストの項目に沿って解説する。その際、テキストを補足する資料やレジュメを配付する。下記の各項目はおおむね講義二回分に相当する。

第1回	日本の政治文化
2回	アメリカに従属する日本1
3回	アメリカに従属する日本2
4回	経済と政治の関係
5回	戦後内閣史1
6回	戦後内閣史2
7回	国家とは何か
8回	議会主義の歴史
9回	日本の選挙制度1
10回	日本の選挙と投票分析
11回	政党とはなにか
12回	戦後政党史
13回	市民運動とはなにか
14回	メディアと政治
15回	レポート作成

教材・テキスト・参考文献等

テキストは長澤高明『入門 現代日本の政治』（学習の友社）

成績評価方法

出席を重視する（30％）。小テストを2回実施する（20％）。レポートの提出を義務付ける（50％）。これらを総合して成績評価とする。

レポート：諸君がテーマを自由に設定し、調べたことに対する自分の見解を書く。A4横書き。4000字。

その他

新聞の政治欄を読む習慣をつけておくこと。『現代用語の基礎知識』などの用語辞典を読む習慣をつけておくこと。

講義科目	: 行政学	単位数	: 4
マークシート略	: [行政学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 立石 芳夫		

講義のねらい

少子高齢社会に対応するための安定した社会保障制度改革、財政危機に端を発する税財政改革、東日本の震災復興など、今日、日本の政治行政課題は山積している。

一般的にあって、現代社会ではさまざまな新しい社会問題が噴出してくるが、政府はそのなかから解決すべき行政課題を選択し、政策的に対応していくことになる。しかし、政府がさまざまな問題に関与すればするほど、行政制度や政策体系がいつそう複雑なものになり、その影響力も増大していく。そうなれば、一般の人びとがそれをコントロールできる余地は次第に縮小していく。

このように、巨大化・複雑化した現代行政の制度や仕組みを理解するうえで、行政学の学習は重要な水先案内人の役を引き受けてくれることになるだろう。なぜなら、行政とはさしあたり政府の活動を意味するが、行政学は、この政府の機構・組織とその活動について考察する学門だからである。いうまでもなく、行政の活動は、よかれ悪しかれ国民・市民の日常生活に大きな影響を及ぼす。それゆえ、行政について学習することは、現代人にとって「必須の教養」であるといってもいいだろう。

授業計画

下記の教科書とレジュメにそって講義を進める。テーマは、以下を予定。

- 1 講義の概要説明および序
- 2～9 福祉国家
- 10～15 行政国家、官僚制論
- 16～17 日本の政治行政制度の戦前と戦後
- 18～19 日本の議院内閣制における制度と実態
- 20～23 中央省庁とその再編
- 24～27 公務員制度とその改革
- 28～29 法案・予算の作成過程、まとめ
- 30 試験

教材・テキスト・参考文献等

テキストとして、新藤宗幸『新版 行政ってなんだろう』岩波ジュニア新書、2008年。初回の講義から使用する。

成績評価方法

試験で評価する。出欠はとらない。

その他

- * 政治行政のリアルな展開に関する主要情報は、日々ニュース報道で伝えられている。日頃からとくに新聞購読を心がけてほしい。
- * 本講義とあわせて、他の政治学関連の科目（政治学原論・地方政治論・政治史・政治思想史）の履修を勧めたい。

講義科目 : 地方政治論	単位数 : 4
マークシート略 : [地方政治]	学習形態 : 選択科目
担当 : 岡田 一郎	

講義のねらい

・げんざい、強いリーダーシップを実現するために統治機構を改革するという議論が盛んである。一方、住民が直接参加する取り組みも様々なところで進んでいる。上からのリーダーシップと下からの参加はどのように折り合いが付けられるのか、ガバナンスという概念をキーに考察していきたい。

授業計画

第1回 地方政治論の対象と方法	第9回 住民投票と討議制民主主義
第2回 新自由主義とポスト福祉国家	第10回 中央地方関係の変化
第3回 労働、社会保障	第11回 ローカル・ガバナンス
第4回 地方分権	第12回 討議制民主主義演習（1）
第5回 大都市制度	第13回 討議制民主主義演習（2）
第6回 産業振興	第14回 資本蓄積と地方政治
第7回 広域行政	第15回 まとめと確認
第8回 コミュニティ活動	

教材・テキスト・参考文献等

- ・テキスト：『ローカル・ガバナンスとデモクラシー』（法律文化社、2016年）
- ・参考文献は講義中に適宜紹介する。

成績評価方法

- ・数週に一度、講義内容の区切りのところで小テストを実施する。
- ・後期試験は自筆ノートと講義で配布したプリントのみ持ち込み可とする。
- ・評価は小テストを40%、後期試験を60%の割合で判定する。

その他

行政学、政治学、財政学など関連分野を併せて受講することを推奨します。グループで討論し、結果を報告する機会を作る予定です。能動的な姿勢で参加されることを期待しています。

講義科目 : 社会福祉論	単位数 : 2
マークシート略 : [社会福祉]	学習形態 : 選択科目
担当 : 脇田 愉司	

講義のねらい

社会福祉への幅広い関心（面白さと深さ）を誘い、「人間と社会・福祉」について根源的に考えることを目的とする。

現実の生活・暮らしにつながるテーマを設定し、①社会福祉の目指すものとは何か、②社会福祉の「思想、人間観」とは何かについて、原点的に学び深めていくことにする。

授業計画

基本的には、次のようなテーマを設定しながら、講義を進めていく。

- 第1回 オリエンテーション、「福祉とは、学ぶとは」「福祉を学ぶとは」
- 第2回 「人間の生命の3つの本性」「ささえあいの人間学」
- 第3回 「現代の姥捨山問題」、「檜山節考」を考える
- 第4回 「福祉国家、社会保障、社会福祉とは」
「社会福祉とニード」－社会福祉の対象とは何か
- 第5回 「社会福祉の思想のルーツ（原型）と原理－歴史的展開」
- 第6回 「この国の社会福祉の歴史」野本三吉著『社会福祉事業の歴史』から
- 第7回 「老いと生い（おい）－介護保険の光と陰」、
「痴呆（認知症）を生きるということ」
- 第8回 「障害、障害者とは何か」、「障害学」とは何か
- 第9回 「貧困・不平等・社会福祉－生活保護の現場から考える」
- 第10回 「風になれ！子どもたち－児童福祉の風景」、児童虐待とは
- 第11回 「地域福祉とコミュニティー共同体のかなたへ」
- 第12回 「地域福祉の創造－ボランティアとNPO活動」
- 第13回 「社会福祉の目指すもの～ノーマリゼーション思想と共生の思想」
- 第14回 「現代社会のゆくえ－魂に触れる福祉の世界」
- 第15回 まとめと確認（レポート等）

教材・テキスト・参考文献等

教科書は「社会福祉原論」講義ノート（私家版）。随時、資料を配布する。

参考書は次のとおり。

『社会福祉事業の歴史』 野本三吉著 明石書店 1998年

成績評価方法

出席、レポートなどにより、総合的に評価する。概ね、出席30%、レポート70%の配分。出席を重視し、原則として、5回以上の欠席は評価外。

毎回、講義終了後に、講義の感想等のアンケートを徴取する。

その他、学生へのメッセージ

ひとは何故他者を助けたりするのか、そもそもどうしてひとは他人を支えたりしようとするのか。「福祉を哲学する」ことをベースに、福祉の「内的衝動」を探っていく中で、生きることや学ぶ意味、「生命（いのち）はいのちでしか語れないこと」（いのち論）などを共に考えていきたい。

また、「覚える」ことに止まらない、なぜなのかという「考える」ことを重視していきたい。

対象：

講義科目	：地域政策論	単位数	：2
マーケット略	：地域政策	学習形態	：選択科目
担当	：南 有哲		

講義のねらい

農業・林業・水産業といった第一次産業は人間社会の基盤であるとともに、地域経済の基軸でもあるが、自然環境とのかかわりが深く、その在り方によっては自然と人間社会の双方に深刻な問題を引き起こす。本講義では、「生物多様性」および「持続可能性」の観点から、日本の第一次産業の現状と問題点について考察していく。

授業計画

- 第1回 はじめに——生物多様性と第一次産業
- 第2回 日本の林業の歴史と現状①
- 第3回 日本の林業の歴史と現状②
- 第4回 獣害問題とは何か①
- 第5回 獣害問題とは何か②
- 第6回 外来生物問題を考える①
- 第7回 外来生物問題を考える②
- 第8回 農業とは何か①
- 第9回 農業とは何か②
- 第10回 日本の食料政策と食料自給率
- 第11回 遺伝子組み換えについて
- 第12回 日本の水産業の現状について
- 第13回 乱獲問題について①
- 第14回 乱獲問題について②
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

講義のなかで、適宜指示する。

成績評価方法

- ・毎回の小レポート提出

その他

備考

講義科目 : 環境政策論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有哲	

講義のねらい

21世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは、おそらく不十分であり、主権者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義においては、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。

授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 環境問題とは何か
- 第3回 環境破壊の人類史①
- 第4回 環境破壊の人類史②
- 第5回 工業化について
- 第6回 グローバル市場経済の仕組み①
- 第7回 グローバル市場経済の仕組み②
- 第8回 市場経済と国家
- 第9回 南北格差の歴史と現状①
- 第10回 南北格差の歴史と現状②
- 第11回 気候政策の国際的展開①
- 第12回 気候政策の国際的展開②
- 第13回 日本における気候政策①
- 第14回 日本における気候政策②
- 第15回 求められる環境政策とは

教材・テキスト・参考文献等

講義中に適宜指示する。

成績評価方法

毎回小レポートを課し、それによって評価を行う

その他

講義科目 : 統計学	単位数 : 2
マークシート略 : [統計学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田添 篤史	

講義のねらい

統計学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。現代の社会では様々な統計データが発表されていますが、それをどのように理解すればよいかを学ぶことが目標です。

授業計画

第1回	ガイダンス(統計学とはどのようなものか)
2回	資料の整理(度数分布表)
3回	資料の整理(ヒストグラム)
4回	代表値(さまざまな平均)
5回	代表値(中央値、分位数、最頻値)
6回	平均値と中央値
7回	散布度(分散と標準偏差)
8回	散布度(範囲と四分位偏差)
9回	歪度と尖度
10回	相関係数
11回	相関と因果関係
12回	回帰(回帰直線、最小二乗法)
13回	回帰(標準誤差と決定係数)
14回	推定と検定
15回	身の回りの統計

教材・テキスト・参考文献等

教科書は用いず、適宜資料を配布します。

成績評価方法

出席(50%)、期末レポート(50%)

その他

講義科目 : 経済原論	単位数 : 4
マークシート略 : [経済原論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田添 篤史	

講義のねらい

経済学には、企業や消費主体の最適化に基づく個別主体の選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個々の主体の単純な合成としては把握せず、一つの独自の総体として取り扱うマクロ経済学の2つが存在しています。この講義では第2回から第16回においてミクロ経済学、第17回から第29回でマクロ経済学を取り扱います。

授業計画

第1回	ミクロ経済学とマクロ経済学	第16回	余剰分析(2)
2回	経済学の思考パターンとグラフの読み方	17回	経済学の全体像 - 様々な考え方
3回	限界効用理論	18回	国民経済計算(1)
4回	無差別曲線の理論(1)	19回	国民経済計算(2)
5回	無差別曲線の理論(2)	20回	財市場の分析(1)
6回	無差別曲線の理論(3)	21回	財市場の分析(2)
7回	無差別曲線の理論(4)	22回	財市場の分析(3)
8回	生産の理論	23回	財市場の分析(4)
9回	完全競争市場の生産量決定(1)	24回	資産市場の分析(1)
10回	完全競争市場の生産量決定(2)	25回	資産市場の分析(2)
11回	独占の理論	26回	資産市場の分析(3)
12回	寡占の理論	27回	財市場の資産市場の同時分析(1)
13回	ゲームの理論	28回	財市場と資産市場の同時分析(2)
14回	市場の均衡と安定性	29回	経済成長の源泉
15回	余剰分析(1)	30回	テスト

教材・テキスト・参考文献等

毎回資料を配布します。資料は以下の参考書を要約したものとなっています。

参考文献

石川秀樹(著) 中央経済社

『試験攻略 新・経済学入門塾1 マクロ編』

『試験攻略 新・経済学入門塾2 ミクロ編』

成績評価方法

期末テスト

その他

講義科目 : 経済史	単位数 : 4
マークシート略 : [経済史]	学習形態 : 選択科目
担当 : 茂木 陽一	

講義のねらい

●本年度講義では、世界と日本の人口変動と貨幣・物価変動を軸にした経済発展に関する新しい見方を講じます。その上で、近代日本の経済発展を戦争・植民地支配と平和・軍縮、また、短・中・長期の経済変動、とりわけ世界恐慌＝昭和恐慌との関連で概観し、近代日本のアポリア(難問)に対する一定の解答を示すつもりです。

授業計画

第1回	経済史とは何か?	第16回	貨幣の誕生
2回	人口史の方法	17回	江戸期の三貨制度
3回	人類の誕生と農耕革命	18回	藩札と私札
4回	前近代の人口と経済	19回	文政期インフレ成長仮説
5回	価格革命と産業革命	20回	近代幣制の成立
6回	近代経済成長と人口増加	21回	「円」の誕生
7回	人口転換と近代家族	22回	銀行システムの成立と産業革命
8回	人口波動と日本の歴史	23回	金本位制と三環節構造
9回	経済社会化と第三の波動	24回	恐慌と金本位制度の動揺
10回	近代日本の経済成長と第四の波動	25回	総力戦体制と管理通貨制度
11回	人口減少社会と経済変動	26回	敗戦と戦後復興
12回	少子高齢化と第二人口転換	27回	高度経済成長
13回	近代家族の解体	28回	近代日本の戦争・軍隊・植民地
14回	途上国の人口問題	29回	戦争と経済発展
15回	まとめと確認－中間試験	30回	まとめと確認－期末試験

教材・テキスト・参考文献等

- 講義の際に資料とレジュメを配布し、それにしたがって講義を進めます。
- 適宜講義録を配布します。復習のための資料ですが、配付資料とこの講義録を合わせると、テキストになります。
- 講義の参考になる文献として以下のものを挙げておきます。
G. クラーク『10万年の世界経済史』上・下(日経BP社)、鬼頭宏『人口から読む日本の歴史』(講談社学術文庫)、高木久史『通貨の日本史』(中公新書)

成績評価方法

- 評価は小レポート①～⑥(各5点、合計30点)、中間試験(35点)、期末試験(35点)の合計で行います。合計が60%以上で可、70%以上で良、80%以上で優とします。また1/3以上欠席した者は無資格とします。

その他

- 毎回出席カードを配付します。質問・要望のある人はカードに書いて下さい。どんな質問でもなるべく丁寧に回答します。回答は次の時間に口頭で説明するかプリントにして配付します。
- 正当な理由がある場合以外の遅刻・早退は認めません。私語をやめなかったり、居眠りをしたりする者には退室してもらうことがあります。

講義科目 : 経済政策	単位数 : 4
マークシート略 : [経済政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 森岡 洋	

講義のねらい

①資本主義経済の特徴は市場経済で運営されていることと私有財産制度が存在することである。この資本主義経済ではどのような解決すべき課題が存在するのか、完全雇用と景気調整の安定化政策および分配政策という解決すべき課題を中心に経済政策について述べる。

②また、経済学の観点から経済政策を考える場合、経済的厚生という概念を使う。この概念を式で示したものに社会的厚生関数があり、このことについても述べる。

授業計画

I 資本主義経済の特徴と経済政策の必要性

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 第1回 資本主義経済と私有財産制度 | 第2回 資本主義経済と市場経済 |
| 第3回 資本主義経済の長所 | 第4回 短所と経済政策の必要性 |
| 第5回 経済政策の形態 | |

II 経済政策の理論

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 第6回 経済政策の目的、手段、主体 | 第7回 経済的厚生について |
| 第8回 ピグーの三命題 | 第9回 バーグソンの社会的厚生関数 |
| 第10回 最適な経済政策とは | |

III 資本主義経済と分配政策

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 第11回 経済発展と所得分配 | 第12回 ローレンツ曲線とジニー係数 |
| 第13回 日本経済での所得格差の拡大 | 第14回 ピグーの所得分配論 |
| 第15回 格差解消の経済政策 | |
| 第16回 講義の中間まとめ | |

IV 資本主義経済と安定化政策（ケインズ経済学による）

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 第17回 ケインズ経済学の体系 | 第18回 古典派経済学の労働市場 |
| 第19回 ケインズ経済学の労働市場 | 第20回 ケインズ経済学の生産物市場 |
| 第21回 生産物市場での消費と投資 | 第22回 生産物市場と景気循環 |
| 第23回 貨幣市場での貨幣供給 | 第24回 貨幣市場での貨幣需要 |
| 第25回 貨幣市場での利子率の決定 | 第26回 ケインズ経済学の金融政策 |
| 第27回 金融政策の限界 | 第28回 ケインズ経済学の財政政策 |
| 第29回 財政政策の問題点 | |
| 第30回 講義まとめ（最終試験） | |

教材・テキスト・参考文献等

講義中に講義内容に沿ったプリントを配布する。

成績評価方法

講義が半分ほど経過したとき講義の中間まとめの論述形式での中間テストを行う。最終試験で講義の後半部分のテストを論述形式で行う。講義には3分の2以上出席しなければならない。なお、評価として、中間テスト45%、最終試験45%、出席10%とする。

その他

講義科目	: 金融論	単位数	: 4
マークシート略	: [金融論]	学習形態	: 選択科目
担当	: 石原 洋介		

講義のねらい

今日では、世界の経済動向を理解するために金融に関する知識が不可欠となっています。したがって金融の知識は、将来金融関係の職に就きたいと考える学生のみならず、全ての社会人が身につけておくべき一般教養となっています。

本講義は、難解な金融理論を学ぶことよりも、日本の現在の金融システムや金融政策の基本的な仕組みを知ることにより重点を置き、金融をめぐる様々な社会問題にも言及していきます。基礎的な統計データを活用しながら、金融が我々の暮らしとどれだけ密接な関係にあるのか、金融に関する社会問題の背景には何があるのか、などを分かりやすく解説していきたいと考えています。

授業計画

第1回	ガイダンス、貨幣の歴史①	第16回	日本の財政と国債②
2回	貨幣の歴史②	17回	短期金融市場①
3回	商品と貨幣、貨幣の発生①	18回	短期金融市場②
4回	商品と貨幣、貨幣の発生②	19回	長期金融市場①
5回	貨幣機能、通貨の発行①	20回	長期金融市場②
6回	貨幣機能、通貨の発行②	21回	日本銀行と金融政策①
7回	資金循環、企業の資金調達①	22回	日本銀行と金融政策②
8回	資金循環、企業の資金調達②	23回	日本銀行と金融政策③
9回	日本の金融機関（前編）①	24回	国際収支と外国為替市場①
10回	日本の金融機関（前編）②	25回	国際収支と外国為替市場②
11回	日本の金融機関（後編）①	26回	国際収支と外国為替市場③
12回	日本の金融機関（後編）②	27回	デリバティブ市場①
13回	銀行融資と金利①	28回	デリバティブ市場②
14回	銀行融資と金利②	29回	サブプライム危機①
15回	日本の財政と国債①	30回	サブプライム危機②

教材・テキスト・参考文献等

特定の教科書は指定しません。配布するレジユメをもとに講義を行います。

成績評価方法

成績評価はレポート提出による評価（8割）に、出席点（2割）を加味して行います。出席は毎回取るのではなく、不定期に4～5回程度取って点数化します。レポート課題は最初の講義（ガイダンス）で発表します。

その他

関連講義として、「統計学」「経済原論」「経済政策」「簿記原理」「財政学」などを履修することを推奨します。また、新聞を毎日読むことを心がけて下さい。

講義科目 : 財政学	単位数 : 4
マーケット略 : [財政学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 大畑 智史	

講義のねらい

現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面において重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、とりわけ国家の場合（日本）に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な国家財政について専門的に考察できることを目標とします。

授業計画

1	オリエンテーション	16	法人課税
2	財政学の歴史	17	法人課税
3	財政学の歴史	18	中間テスト
4	財政の範囲と規模	19	消費課税
5	財政の機能	20	消費課税
6	予算	21	資産課税
7	予算	22	資産課税
8	予算	23	国際課税
9	公共財	24	公債
10	公共財	25	公債
11	公共財	26	国と地方との財政関係
12	租税の基礎	27	国と地方との財政関係
13	租税の基礎	28	社会保障
14	所得課税	29	社会保障
15	所得課税	30	まとめ、最終テスト

教材・テキスト・参考文献等

テキストは指定しませんが、下記の文献を参考文献として挙げておきます。

池上惇『財政思想史』有斐閣、2002年

植田和弘、諸富徹 編『テキストブック 現代財政学』有斐閣、2016年

持田信樹『地方財政論』東京大学出版会、2013年

『図説 日本の財政』東洋経済新報社（各年度版）

『図説 日本の税制』財経詳報社（各年度版）

成績評価方法

中間テスト：20%

講義内容についての感想（複数回）：20%

最終テスト：60%

その他

・経済政策、地方財政論、などの科目も履修することをお勧めします。

講義科目 : 経営学	単位数 : 4
マークシート略 : [経営学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 杉山 直	

講義のねらい

本講義は、経営学の基本的な概念を理解できるようになることを目的とします。

私たちの周りには多くの企業（会社）があります。多くの人はそこで働いて収入を得て、それで必要なものを買って生活しています。このように現在、私たちの生活は企業なくしては全く成り立ちません。さらに言えば、企業は、私たちの生活を含めた現在の社会全体に対して大きな影響を与えるものとなっています。

本講義では、このように私たちの生活と深く関わっている企業とは何か、またそれはどのように経営されているのか、という問題についてみていくことにします。そのために、企業経営の実態を理解するために必要な基礎理論や具体的事例を取り上げていきます。

授業計画

第1回 ガイダンス	第16回 組織の仕組みと分業
第2回 経営学を学ぶ	第17回 分業と調整
第3回 会社の経営と経営資源	第18回 労働と動機づけ
第4回 会社経営の仕組み	第19回 リーダーシップ
第5回 会社の機能と行動	第20回 テイラーと科学的管理法
第6回 会社の社会的責任	第21回 ヘンリー・フォードとフォードシステム
第7回 株式会社の諸機関	第22回 大野耐一とトヨタ生産方式
第8回 コーポレート・ガバナンス	第23回 資本の調達と運用
第9回 経営理念	第24回 生産管理
第10回 経営戦略	第25回 マーケティング
第11回 組織形態の基本モデル	第26回 人的資源管理(1)
第12回 様々な組織形態	第27回 人的資源管理(2)
第13回 組織形態の発展パターン	第28回 日本的経営
第14回 企業集団と系列	第29回 国際経営
第15回 戦略的提携	第30回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

- ・授業ではプリントと資料を配布します。
- ・プリントと資料については、ガイダンス（第1回）で説明します。
- ・プリントと資料は試験が終わるまで保存して下さい。
- ・参考文献は必要に応じて紹介します。

成績評価方法

- ・成績は試験(50%)、課題(40%)とレポート(10%)で評価します。
- ・試験及び課題とレポートの実施方法については、ガイダンス（第1回）で説明します。
- ・課題とレポートは提出期限を越えたものは受け付けません。

その他

- ・授業の進捗状況によって、授業計画を変更することがあります。

講義科目 : マーケティング論	単位数 : 4
マークシート略 : [マーケテ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鷲尾 和紀	

講義のねらい

本講義は最初にマーケティングの原理を学びます。さらに経済における活動に生産と消費がある中で、マーケティング戦略論の主な課題である企業への顧客または市場・環境への対応、競合への対応、手法について学びます。マーケティングは「売れる仕組み」を考えます。またその目標は顧客の価値創造と維持であります。マーケティング戦略の本質を様々な事例を通して理解していくことが授業の到達目標であります。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	ブランド戦略①
2回	マーケティング戦略の意義	17回	ブランド戦略②
3回	マーケティング・コンセプト	18回	価格戦略①
4回	需要・顧客価値、競争とマーケティング	19回	価格戦略②
5回	マーケティング・マネジメントの基本	20回	チャネル戦略①
6回	市場機会の分析と発見	21回	チャネル戦略②
7回	SWOT分析(外部)	22回	コミュニケーション戦略①
8回	SWOT分析(内部)	23回	コミュニケーション戦略②
9回	市場細分化	24回	情報ネットワーク戦略/デジタルツール
10回	標的市場の設定	25回	サービスマーケティング①
11回	ターゲティング	26回	サービスマーケティング②
12回	ポジショニング①	27回	サービスマーケティング③
13回	ポジショニング②	28回	消費者行動とマーケティング
14回	製品戦略①	29回	まとめ
15回	製品戦略②	30回	テスト

教材・テキスト・参考文献等

鷲尾和紀・鷲尾紀吉(2017)『マーケティング戦略論』発行：創成社

成績評価方法

- ・テスト
- ・出席を毎回していれば自然とテストの点数が取れます。授業態度等。

その他

毎回ではないが簡単な小テストまたはレポートを実施する場合があります。パワーポイントで授業を行った場合、スライドを携帯電話でカメラ撮影することは禁止しています。

受動ではなく能動に学生が主体的に考え、教員と学生がコミュニケーションをし、また将来への意識付けができるような授業を目指します。

日常生活においてマーケティングはあらゆるところに存在しています。日々の生活からマーケティングをイメージできるようになれば楽しくなります。

※注意： 65・64期生対象カリキュラム科目

講義科目 : 人的資源管理論	単位数 : 2
マーケット略 : [人的資源]	学習形態 : 選択科目
担当 : 杉山 直	

講義のねらい

本講義は、人的資源管理の基本的な概念や実態を理解できるようになることを目的とします。

企業に雇用されて働く限り、人的資源管理は生活のあり方に深く関わるものです。例えば、採用後の配属やその後の異動、昇格・昇進、賃金、福利厚生、労働時間、安全・衛生などです。つまり平たく言えば、本講義では、企業での「働かせる仕組み・働く仕組み」についてみていくことになります。

こうした「仕組み」を理解することは、企業で働く上で大いに役立つものです。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 人的資源管理を学ぶ意義
- 第3回 人的資源管理と人間モデル
- 第4回 採用・配置
- 第5回 人材育成・教育訓練
- 第6回 人事評価
- 第7回 昇格・昇進
- 第8回 賃金管理
- 第9回 福利厚生制度
- 第10回 労働時間管理
- 第11回 安全・衛生
- 第12回 労使関係管理
- 第13回 退職管理
- 第14回 雇用形態の多様化
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

- ・授業ではプリントと資料を配布します。
- ・プリントと資料については、ガイダンス（第1回）で説明します。
- ・プリントと資料は試験が終わるまで保存して下さい。
- ・参考文献は必要に応じて紹介します。

成績評価方法

- ・成績は試験(50%)、課題(30%)、レポート(20%)で評価します。
- ・試験及び課題の実施方法については、ガイダンス（第1回）で説明します。
- ・課題は提出期限を越えたものは受け付けません。

その他

- ・授業の進捗状況によって、授業計画を変更することがあります。

講義科目	: 会計学	単位数	: 4
マークシート略	: [会計学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 稲山 訓央		

講義のねらい

会計学は、企業や官庁や家計など一定の経済主体を単位として行う会計行為に関する学問のことを指します。企業がおこなう会計行為を企業会計と言い、それをチェックする制度が会計監査と言います。前半では企業会計を、後半では会計監査について学びます。

授業計画

第1回	会計学と	第16回	社会を揺るがす経済事件
第2回	現代会計の役割	第17回	経済事件とコーポレート・ガバナンス
第3回	会計士会計学と経営者会計学	第18回	経済社会を支える財務情報
第4回	動態論と静態論	第19回	財務諸表監査の必要性
第5回	収益力の測定	第20回	監査を取り巻く法律
第6回	会社法会計の目的	第21回	監査を担当する人
第7回	トライアングル体制	第22回	監査を取り巻く組織
第8回	会計公準	第23回	監査のルール
第9回	企業会計原則（統括原則）	第24回	監査のプロセス(1)
第10回	企業会計原則（計算原則①）	第25回	監査のプロセス(2)
第11回	企業会計原則（計算原則②）	第26回	監査結果の報告
第12回	企業会計原則（計算原則③）	第27回	監査の信頼性向上のための取り組み
第13回	企業会計原則（報告原則①）	第28回	健全な社会と監査
第14回	企業会計原則（報告原則②）	第29回	期末試験
第15回	企業会計原則（報告原則③）	第30回	まとめ

教材・テキスト・参考文献等プリントで配布致します。

成績評価方法出席状況（30%）、確認テスト（70%）を基準に評価をします。

その他

- 授業の進捗度に応じて授業計画が変更される場合があります。
- 電卓をご用意下さい。

講義科目 : 簿記原理	単位数 : 4
マーケット略 : [簿記原理]	学習形態 : 選択科目
担当 : 藤田 美咲	

講義のねらい

すべての経済活動の背後には必ず会計がついてまわります。企業の活動内容を数字から理解し、成果を測り、状況を把握し、そして将来をよむ。これらのことを可能にするための基礎として簿記の基本を学びます。最終的に日本商工会議所簿記検定3級レベルの実力を修得することを目標とします。

授業計画

テキストに沿って、おおよそ以下のように進めていく予定ですが、進行状況によって修正をしていきます。

第1回2回	ガイダンス、簿記の基礎
3回4回	記帳のルール
5回6回	記帳のルール、簿記一巡の手続き
7回8回	商品売買Ⅰ、Ⅱ
9回10回	商品売買Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ
11回12回	商品売買Ⅵ、Ⅶ
13回14回	その他の取引Ⅰ、Ⅱ
15回16回	その他の取引Ⅲ、Ⅳ
17回18回	その他の取引Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ
19回20回	その他の取引Ⅷ、試算表、決算、決算整理Ⅰ
21回22回	決算整理Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
23回24回	決算整理Ⅴ、Ⅵ
25回26回	精算表
27回28回	損益計算書と貸借対照表、伝票
29回30回	確認テスト

教材・テキスト・参考文献等

(テキスト)

「合格テキスト 日商簿記3級」 TAC出版

成績評価方法

試験80%に平常点（出席状況、講義中の態度）20%を加味して判定します。出席は毎回とります。

その他

講義には電卓をご用意ください。

講義科目 : 工業簿記および原価計算	単位数 : 2
マーケット略 : [工業簿記]	学習形態 : 選択科目
担当 : 藤田 美咲	

講義のねらい

この地域を支える製造業における取引の記録システムである工業簿記と、製品の原価の計算について理解することを目的とします。

最終的に日本商工会議所簿記検定2級の工業簿記レベルの実力を修得することを目標とします。

授業計画

テキストに沿って、おおよそ以下のように進めていく予定ですが、進行状況によって修正をしていきます。

第1回	ガイダンス、工業簿記の基礎、工業簿記の勘定連絡
2回	材料費
3回	労務費、経費
4回	個別原価計算①
5回	個別原価計算②
6回	個別原価計算③
7回	個別原価計算④
8回	総合原価計算①
9回	総合原価計算②
10回	総合原価計算③
11回	標準原価計算①
12回	標準原価計算②、財務諸表の表示
13回	直接原価計算
14回	CVP分析、本社工場会計
15回	確認テスト

教材・テキスト・参考文献等

(テキスト)

「合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記」TAC出版

成績評価方法

試験80%に平常点（出席状況、講義中の態度）20%を加味して判定します。出席は毎回とります。

その他

講義には電卓をご用意ください。

本講義は簿記3級程度の基本的な簿記の知識があることを前提としております。

講義科目	: 上級簿記	単位数	: 2
マーケット略	: [上級簿記]	学習形態	: 選択科目
担当	: 稲山 訓央		

講義のねらい

本講義では、日商簿記検定 2 級の商業簿記の内容を学習します。

簿記は、会計学の基礎となる科目です。簿記により企業の経済活動を数量的に捉えることによって、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることができます。簿記の知識と技術は、社会的にも大きな役割を果たしており、経済社会で活躍する人々たちにとっては、身につけておきたい知識と技術であると言えます。企業の経済活動を数値化することで、企業の管理ができ、投資家に対して情報を公開することができます。さらに税金の計算にも役立てられています。また、簿記を学ぶことで、物事を合理的に考察し、正確かつ迅速に処理する能力や思考力を身につけることができます。

授業計画

- 第 1 回 現金・預金・売掛金
- 第 2 回 手形取引と電子記録債権・商品
- 第 3 回 固定資産・引当金
- 第 4 回 株式会社会計・無形固定資産と投資
- 第 5 回 剰余金の配当・リース取引
- 第 6 回 外貨建取引・収益と費用の認識基準
- 第 7 回 株式会社の税金・税公開会計
- 第 8 回 決算
- 第 9 回 財務諸表の作成
- 第 10 回 本支店会計
- 第 11 回 連結会計の手続き
- 第 12 回 連結会社間の取引
- 第 13 回 問題演習
- 第 14 回 問題演習
- 第 15 回 確認テスト

教材・テキスト・参考文献等

- 最新段階式日商簿記検定問題集 2 級商業簿記 三訂版 実教出版
教科書に書き込みながら、講義を進めていくので、必ず持参してください。

成績評価方法

- 出席状況（15%）と確認テスト（85%）を基準に評価をします。

その他

- 日商簿記検定 3 級取得者、簿記原理で日商簿記検定 3 級程度の学習を終えた者を対象とします。
- 「工業簿記及び原価計算」とセットで受講することで日商簿記検定 2 級の学習をすることができます。
- 電卓をご用意下さい。

講義科目	:社会科学演習	単位数	:4
マークシート略	:〔社会演習〕	学習形態	:必修科目
担当	:石原 洋介	* 第2学年で履修	

講義のねらい

今日の世界経済を理解する上で、金融の果たしている役割は特に重要です。特にこの30年のあいだに、金融業が実体経済を支配していく「経済の金融化」が進行してきました。その結果、経済のみならず、社会、政治、教育など様々な場面で、これまでにない現象が生じてきています。今期のゼミでは、金融の支配が確立した世界経済ではどのような問題が起こるのか、そして、これから我々はどうすればいいのかを考えることをテーマに、下記のテキストを参考にしながら、ゼミ生の皆さんと議論していきたいと思えます。

前期は下記のテキストを輪読しながら、学生どうしの討論を通じて、前述の問題を考えていきます。なお、後期の演習のテーマについては、後日、学生と相談して決定します。

また、卒業論文を執筆してもらいますが、本学で夏季に実施される小論文コンクールへの論文提出をもって代替することを認めます。

授業計画

- ・毎週テキストの一定分量を順次学生が報告し、討論を行います。
- ・サマフェスまたは三重短祭に何らかの形で参加するものとします。
- ・卒業論文や小論文コンクール提出作品の作成を行います。

教材・テキスト・参考文献等

次のテキストを最初のゼミまでに購入しておくようにしてください。

リチャード・マーフィー『ダーティ・シークレット タックス・ヘイブンが経済を破壊する』岩波書店、2017年。

成績評価方法

出席およびゼミでの報告、討論への参加、卒業論文または小論文コンクール提出作品の出来などを総合的に判断して評価を行います。

その他

- ・法経科第1部の金融論ゼミでは夏季に課外研修を実施しますが（演習シラバス参照）、2部のゼミ生でも希望者は同研修に参加可能です（旅費は自己負担となります）。

講義科目	:社会科学演習	単位数	:4
マークシート略	:〔社会演習〕	学習形態	:必修科目
担当	:大畑 智史	* 第2学年で履修	

講義のねらい

地方経済の活性化は、現在の日本における重要な論点の一つです。本演習では、地方経済活性化と地方財政との関連性について、履修者が専門的な見解を持てることを目標とします。

授業計画

[前期]

- ・ 講読文献の内容に関する議論
- ・ 卒業論文関係：経過報告、議論

[後期]

- ・ 講読文献の内容に関する議論
- ・ 卒業論文関係：経過報告・最終報告、議論

* 地方経済活性化の取組みの現場に訪問（自由参加）することを考えています。この詳細は、受講生と相談の上、決めます。

2017年度：伊賀市方面（9月）

教材・テキスト・参考文献等

文献講読では、まず、下記の著書を読みます。

木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社、2016年

これ以降は、受講生と相談の上、決めていきます。

その他、本演習関連の文献については、適宜紹介します。

成績評価方法

出席、卒業研究関係報告、これらを総合的に評価します。

その他

- ・ できるだけ、財政学関連の講義を受講して下さい。
- ・ 各種行事への積極的な参加を考えています。

講義科目	:社会科学演習	単位数	:4
マークシート略	:〔演習〕	学習形態	:必修科目
担当	:川崎 航史郎	* 第2学年で履修	

講義のねらい

労働や社会保障の実態を理解し、問題の把握をすることを目指します。指定した教材に掲載されているテーマを中心に、各参加者が自由に選択した課題を取り上げ、報告を行います。報告者以外は、報告への事前学習と積極的な意見提供を行うことが求められます。報告者はテーマに関連する資料を収集し、綿密な報告の準備が必要です。資料収集の方法や、報告の仕方については演習の最初に指示します。報告内容は大きなテーマ設定はしますが、内容は関心があることに取り組んでもらって大丈夫です。

授業計画

労働問題や社会保障の実態について、初めに数回新聞記事を素材に情報提供を行い、その後、報告の仕方(資料収集、レジメの作成方法など)について講義します。テーマ例は、長時間労働、過労死、サービス残業、非正規労働者保護、ブラックバイトと法律問題、労働組合活動の保護、高齢者・女性・子どもの貧困、障がい者差別、貧困と生活保護、最低賃金、奨学金返済、若者と雇用などがあります。

教材・テキスト・参考文献等

高橋・鷺谷・赤堀・兵頭「図説 労働の論点」(旬報社、2016年)1500円(必ず購入手下さい)。労働法で使用したテキスト。他、適宜指示します。

成績評価方法

出席状況、報告準備、報告への事前勉強等、総合的に評価します。

その他

積極点に準備し、発言することを希望します。「労働法」は必ず受講し、「人的資源管理論」「社会福祉論」も履修するとよいです。労働と社会保障は問題が山積みで深刻ですので、勉強をしたい!という方の受講を待っています。

講義科目	:社会科学演習	単位数	:4
マークシート略	:〔社会演習〕	学習形態	:必修科目
担当	:楠本 孝	* 第2学年で履修	

講義のねらい

テーマ：刑事法の諸問題

概要：

本ゼミは、各ゼミ員が自ら自分のテーマを決め、そのテーマについて1年間研究した成果をゼミ論にまとめることを目標とする。

授業計画

本ゼミは、各ゼミ員が自分のテーマについて報告し、他のゼミ員と討論するという方法で行う。

教材・テキスト・参考文献等

演習時において指示する。

成績評価方法

ゼミ論の内容とゼミへの貢献度を総合的に評価する。

その他

ゼミは、教員が教えるのではなく、ゼミ生の報告によって運営されるので、積極的に取り組む意思がない者は遠慮してほしい。

講義科目 : 社会科学演習	単位数 : 4
マークシート略 : [社会演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 杉山 直	* 第2学年で履修

講義のねらい

私たちの生活は経済活動の中心である企業の活動と大きく関係しています。そしてこの企業の経営は、経済のグローバル化やドルや円の為替相場の変動など経営環境によって変わります。同時に企業の活動によって、不安定雇用の拡大や環境問題など経済的・社会的問題が生まれています。

本演習では、そうした企業活動を理解するために経営学に関する文献を精読します。そして、各自の問題意識から一つのテーマを取り上げ、それぞれの考えをまとめていきます。

授業計画

①前期

- ・経営学の理論と企業活動の理解に関わる文献を精読し、議論していきます。
- ・毎回、報告者の要約・報告を中心に演習を進めていきます。

②後期

- ・前半は、前期と同じように進めます。
- ・後半においては、各自が問題意識とテーマを報告します。
- ・各自が設定したテーマに基づいた卒業論文執筆に向けて、進捗状況の報告を行い、検討します。

教材・テキスト・参考文献等

- ・テキストは次のとおりです
- ・①今井齊・岸川典昭・宮崎信二編著『新版 経営から見る現代社会』文真堂、2014年
- ・①のテキストを読み終えた時点で、次のテキストを決めます。
- ・参考文献は、必要に応じて紹介します。

成績評価方法

- ・出席、参加状況、卒業論文の内容を総合的に評価します。
- ・毎回の予習（テキストの読書）、担当した場合の報告は評価の前提とします。
- ・演習を欠席する場合は、予め杉山まで連絡して下さい。

講義科目 :社会科学演習	単位数 :4
マークシート略 :〔社会演習〕	学習形態 :必修科目
担当 :立石 芳夫	* 第2学年で履修

講義のねらい

本演習では、政治学もしくは行政学の観点から、国や地方の政治行政の諸問題を扱っていく。

運営方法としては、文献購読を通じて旺盛な討論を試みたいと思う。文献など具体的な内容については、学生と相談して決めていきたい。また、受講生の状況次第では、より基礎的な学習方法を実施することもありうる。

本演習は、とくに政治や行政の問題に関心のある学生にすすめたい。ゼミに対しては、通常の講義とは異なり、教員ではなく学生が中心的な役割を担うことを念頭に置いてもらいたい。毎回のゼミでは、受講生が自分の意見や考えを人前で論理的にコミュニケーションできる能力の養成にも努めたい。

授業計画

受講生と相談のうえ決めていく。

教材・テキスト・参考文献等

テキストなどについては、受講生と相談のうえ決めていく。

成績評価方法

出席状況（50%）、その他（50%）を総合して評価する。また、ほぼ毎回の授業でペーパーの提出を義務づけ、これについてもその他の部分で成績評価の対象とする。

その他

本演習とあわせて、行政学、地方政治論、政治学原論を受講しておくこと。

講義科目	:社会科学演習	単位数	:4
マークシート略	:〔社会演習〕	学習形態	:必修科目
担当	:鷲尾 和紀		* 第2学年で履修

講義のねらい

本演習は、主としてサービス業を中心としたマーケティング戦略を学修します。今日サービス業が多数ある中、マーケティングにおいてサービスとは何か考える必要があります。そのためにはマーケティング・ミックスの実践と生活者の価値観の多様化に対応した市場細分化によるターゲット分析をより深く理解することが求められます。さらにライフプランに合わせた金融商品や保険サービス等についてサービスマーケティング独自のマーケティング戦略について学修します。

またインターネット普及と同時に、近年におけるスマートフォンの開発と増加しつつある広範囲な浸透により、モバイル技術を利用したマーケティングコミュニケーションがますますマーケティングの重要な要素になってきています。人々は利便性を求めるようになり、インターネット上で取引できるサービスについては、時間に対する価値観、期待の持ち方、また新たな環境の中での自己認識のあり方が変わってきています。

これらを自分の立場から考え、マーケティングを通じて自分のあり方を考えられることが本演習の狙いです。

またそれぞれの進路に合ったテーマをもとに研究していくことも可能です。

授業計画

演習では、広く具体的な事例を素材として、マーケティングが果たしている役割や機能を検証していく予定です。また、その作業を通じて最終的に受講者が自らテーマを設定して、最終的に卒業論文を作成してもらいます。その過程で、卒業論文に関する報告を輪番制で行ってもらいます。

教材・テキスト・参考文献等

鷲尾和紀 著 『パーソナルファイナンシャル・サービス・マーケティング』
発行：創成社, 2016年

成績評価方法

演習時の報告、発言、参加などを総合的に考慮し、さらに卒業論文をもって判断します。

その他

経営特殊講義、マーケティング論を受講していることが望ましい。

講義科目	: 社会科学演習	単位数	: 4
マークシート略	: [社会演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 奥山 晋也	* 第2学年で履修	

講義のねらい

「君は短大で何を学んだのか？」この答え探しをすることが本演習の主目的としたい。その手段として、卒業論文の執筆を行う。長い文章を書いた経験は、編入学・就職その先々で役に立つものである。

担当教員は普段税理士として働く実務家であり、税務・会計が専門である。ただし各自研究テーマ選びにあたっては、会計学の枠にとらわれる必要はない。自らの関心が高い内容を自由に選択してもらいたい。

授業計画

【前期】

論文執筆の基礎を徹底的に習得する。そのために複数冊の参考書籍を読む。また並行して研究テーマ選びをする。その過程として各自の関心事を皆の前で話し、意見交換の場を持つ。

- 4月 オリエンテーション、レポート・論文の基本を学ぶ
- 5月 文献・資料の集め方、論文の基本構成を学ぶ
- 6月 研究テーマ選び、仮題目の決定、執筆計画を立てる
- 7月 サマーフェスティバル出店、生きた「会計」を学ぶ
※夏休み ゼミ合宿or研修旅行（希望者多数の場合）

【後期】

毎回各自の研究テーマに沿った内容の発表を行い、自らの考えを整理する。ここではゼミ生同士の自由なディスカッションを行う。新たな気づきを共有し、互いの執筆の援助・協力ができることが望まれる。

- 10月～12月 各自の研究テーマで執筆、中間報告、ディスカッション
- 11月 大学祭出店、生きた「商品売買」を学ぶ
- 1月 卒業論文の完成・最終発表会

教材・テキスト・参考文献等

- 初回演習時に案内する

成績評価方法

- 出席報告内容及び参加姿勢50%、卒業論文50%で評価する

その他

- 卒業論文は、3,000字以上（図表を含む）を基準とする
- 毎回事前準備が必要となるため、積極的に参加できる者が望ましい
- 就職活動等での欠席は、講義録の配付等で可能な限りフォローする
- 担当教員との連絡方法は、演習時以外は原則E-mailとなる

講義科目	:社会科学演習	単位数	:4
マークシート略	:〔社会演習〕	学習形態	:必修科目
担当	:田添 篤史	* 第2学年で履修	

講義のねらい

日本経済の歴史をたどることで、現在の日本の状況がなぜ生まれたのかについて考えます。

授業計画

最初にテキストの分担箇所を決めます。担当者は自分の分担を要約し、レジュメを作り、みんなに発表します。

教材・テキスト・参考文献等

『概説日本経済史 近現代』第3版 東京大学出版会。

ISBN-10: 4130421387

ISBN-13: 978-4130421386

参加者の興味・関心にあわせて追加する可能性もあります。

成績評価方法

出席と参加態度によって決定します。

その他

ニュースや新聞などで現在の経済がどのようになっているのかに関する情報を積極的に収集してください。

講義科目 : 社会科学演習	単位数 : 4
マークシート略 : [社会演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 川上 生馬	* 第2学年で履修

講義のねらい

本講義では、民法に関する具体例を検討することで、問題を理解する力をはじめとする法的思考能力をみにつけることを目的としたい。判例を読むことは法学の学習全般において重要であり、また、教科書の要約も重要な点を抽出するという意味で重要な作業である。それらをもとに議論することで、より深く民法を理解したい。

授業計画

判例考察を中心に講義を進めたい。具体的には、基礎知識の確認、事案と判旨の確認、議論という流れで進めていきたいと考えている。ただし、教科書輪読の希望者が多い場合には、毎回、担当箇所をまとめたものを報告してもらい、報告者に対して他の学生から質問をするといった形で進めることも考えている。これらについては、初回講義時に決定したい。

教材・テキスト・参考文献等

六法を必ず持ってきてください。

そのほか使用する教材については初回講義時に指定します。

成績評価方法

出席、授業に対する姿勢や取り組み度、発表したレポートの内容などを総合的に見て評価をする。

その他

あらかじめ民法Ⅰを履修していることが望ましい。同様に、民法Ⅱ・Ⅲを履修することが望まれる。